

北海道帯広市域における葬送習俗の変容

『資料集成』に見る全国的な傾向を踏まえて

Changes in Funeral Customs in Obihiro City, Hokkaido :
A Comparison with Nationwide Trends Based on "Collection of Materials on
the Death, Funeral Rites, and Grave Systems"
TAKAHASHI Fumiya

高橋史弥

1. はじめに

本稿は、筆者が2010年から2012年にかけて北海道十勝管内の帯広市域で行った葬送習俗の調査により得られた1940年代から2010年までの葬儀37事例から、葬儀の要素の変化を分析したものである。なお、この37事例は、帯広市域在住の12名から収集したものである。収集した事例数を年代ごとで示すと、1940年代は4事例、1950年代は5事例、1960年代は5事例、1970年代は6事例、1980年代は5事例、1990年代は4事例、2000年代は5事例、2010年は3事例である。

本稿では主に、帯広市域で行なわれた葬儀の古い形から新しい形を確認したうえで、葬送習俗の変容の時期とその理由を検討することを目的とした。その変容を追跡するにあたり、時代が変化する中での担い手の変化を読み取るために、棺作りの担当・位牌作りの担当・四花作りの担当・死装束作りの担当、湯灌の担当・湯灌の方法・入棺の担当・料理の用意の担当などに注目した⁽¹⁾。また、葬儀の内容の変化を追跡する項目として、死亡場所の変化、墓地や火葬場への運び方、通夜の場所・葬儀を行なう場所、料理にナマモノを使用するかの有無、葬儀終了後のもてなしの変化、遺骨を納める場所などについても追跡してみた。これらの変化の様子を確認し、得られた情報を元に、葬儀の変化にはどのような社会的要因が関わっているのかまで追跡してみようことを目的とする。

そのうえで、それらの項目を全国的な傾向と比較するために、1997・1998年度に行なわれた資料調査をもとにした国立歴史民俗博物館『死・葬送・墓制資料集成』⁽²⁾（以下『資料集成』と記述）との比較も試みて、帯広市域の葬儀の特徴を指摘してみる。

なお、本稿の内容の内、帯広市域の調査データと『資料集成』の事例数のみのデータは先に『伝承文化研究』⁽³⁾でも報告した。本稿はそれらに対し、さらに調査を行なった結果得られたデータを加え、一部は補足修正したものである。

帯広市域のデータは表1、表6にまとめてみた。また、今回調査した帯広市域の葬儀の要素と対応する『資料集成』のデータは、表8、表9にまとめ、表10に事例数をまとめた。

表 1 帯広市域の葬祭業者の関与などから見る変化とその時期

番号	話者 (生年)	死者の名前と生年・死亡年	所在地	家および主な 稼ぎ手の生業	死亡 場所	棺作りの 担当	位牌作りの 担当	四花作りの 担当	死装束作りの 担当	湯灌 の担当
1	T (1935)	T・Y (1872 ～ 1939, 40)	帯広市街地	土木建築業	病院	地域社会	地域社会	地域社会	地域社会	親族
2	M (1931)	M・Y (1940 ～ 1946)	更別村	畑作農業	病院※ 1	地域社会	地域社会	地域社会	親族	親族
3	H (1933)	S・T (1868 ～ 1948)	幕別町	畑作農業	自宅	地域社会	地域社会	地域社会	不明	親族
4	N (1941)	B・T (1900 頃～ 1940 年代)	士幌町	畑作農業	自宅	地域社会	地域社会	地域社会	地域社会	親族
5	O (1931)	O・K (1898 ～ 1953)	帯広市清川	畑作農業	病院	不明	地域社会	地域社会	不明	なし
6	E (1931)	U・M (1896 ～ 1956)	芽室町	畑作農業	自宅	地域社会	地域社会	地域社会	親族	親族
7	K (1920頃)	K・Y (1891 ～ 1957)	帯広市愛国	商店経営	自宅	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族
8	H (1933)	H・A (1905 ～ 1958)	帯広市愛国	畑作農業	自宅	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社
9	Y (1921)	Y・K (1872 頃～ 1950 年代)	芽室町	建具職人	自宅	地域社会	地域社会	地域社会	親族	親族
10	S (1925 頃)	D・K (1900 ～ 1960)	帯広市街地	会社員	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族	親族
11	E (1931)	U・R (1875 ～ 1964)	芽室町	畑作農業	自宅	地域社会	地域社会	地域社会	親族	親族
12	W (1925)	W・N (1898 ～ 1964)	帯広市別府	畑作農業	病院	なし	親族	地域社会	不明	親族 (札幌)
13	N (1941)	N・F (1903 ～ 1966)	帯広市街地	不明	自宅	不明	葬儀社	葬儀社	地域社会	親族
14	M (1931)	M・N (1896 ～ 1969)	帯広市街地	畑作農業 →会社員	病院	葬儀社	不明	不明	親族	親族
15	H (1933)	S・J (1890 頃～ 1970)	幕別町	畑作農業	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族
16	W (1925)	W・T (1898 ～ 1971)	帯広市別府	畑作農業	自宅	葬儀社	葬儀社	地域社会	葬儀社	親族
17	I (1928)	I・M (1924 ～ 1975)	帯広市別府	畑作農業	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族
18	T (1935)	T・R (1902 ～ 1976)	帯広市街地	土木建築業	病院	地域社会	地域社会	地域社会	地域社会	親族
19	E (1931)	E・S (1904 ～ 1977)	帯広市街地	畑作・牧畜農業	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族	親族
20	I (1928)	F・I (1894 ～ 1979)	芽室町	畑作農業	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族
21	O (1931)	O・Y (1904-1908 ～ 1983, 84)	帯広市川西	畑作農業	自宅	地域社会	地域社会	地域社会	地域社会	親族
22	H (1933)	H・K (1905 ～ 1985)	帯広市愛国	畑作農業 →会社経営	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族・ 葬儀社
23	E (1931)	U・K (1897 ～ 1986)	芽室町	畑作農業	自宅	葬儀社	葬儀社	地域社会	葬儀社	親族
24	K (1920頃)	K・K (1896 ～ 1988)	帯広市愛国	商店経営	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族
25	E (1931)	E・K (1929 ～ 1989)	帯広市街地	畑作・牧畜農業	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族
26	S (1925 頃)	D・S (1905 ～ 1991)	帯広市街地	会社員	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族
27	T (1935)	T・N (1905 頃～ 1991)	帯広市街地	公務員	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族
28	E (1931)	E・Y (1897 ～ 1998)	帯広市街地	畑作・牧畜農業 →公務員	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族
29	M (1931)	M・O (1920 ～ 1999)	帯広市街地	会社員	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族
30	O (1931)	O・T (1937 ～ 2000)	帯広市川西	鉄工所経営	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族・ 葬儀社
31	H (1933)	H・H (1933 ～ 2002)	帯広市愛国	会社経営	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族・ 葬儀社
32	K (1920 頃)	K・T (1919 ～ 2004)	帯広市愛国	商店経営	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族
33	A (1918)	A・M (1918 ～ 2006)	帯広市別府	畑作農業	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族
34	Y (1921)	Y・Y (1947 ～ 2007)	帯広市街地	会社員	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族
35	N (1941)	N・K (1912 ～ 2010)	帯広市街地	会社員	老人 ホーム	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族
36	T (1935)	T・I (1932 ～ 2010)	帯広市街地	公務員	病院	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族
37	N (1941)	B・Y (1910 ～ 2010)	士幌町	畑作農業	老人 ホーム	葬儀社	葬儀社	葬儀社	葬儀社	親族

※ 1 M・Y は、あと少しで死ぬことが分かっていたため、母親がおぶって自宅に連れて帰る道中で死亡
※ 2 火葬場へはバス。自宅へ戻る際はトラック

湯灌の本式・略式	液体 の用意	洗う 範囲	入棺の担当	火葬場・墓地 への運搬	通夜 の場所	葬儀を行 なう場所	土葬・火葬	納骨(埋骨) 場所
お湯 綿	親族	顔	親族	霊柩自動車	自宅	自宅	公営火葬場	寺の納骨堂
アルコール 綿	親族	体全体	親族	徒歩	自宅	自宅	野辺で火葬	寺の納骨堂→つつじが丘 霊園(納骨堂の遺骨はその まま。霊園に移したの は、野辺で火葬したところの土)
アルコール 綿	不明	体全体	親族	不明	自宅	自宅	公営火葬場	寺の納骨堂
水 布	親族	体全体	親族	集落の馬車	自宅	自宅	野辺で火葬	士幌町の墓地
なし	なし	なし	なし	用意の人物不明。 バス※ 2	自宅	自宅	公営火葬場	寺の納骨堂
お湯 タオル 逆水	親族	体全体	親族	集落の馬櫓	自宅	自宅	野辺で火葬	集落の墓地→芽室墓地
お湯かアルコールで 不明	親族	不明	親族	葬儀社のマイクロ バス	自宅	自宅	公営火葬場	寺の納骨堂
水をつけた何か	葬儀社	不明	親族	葬儀社のマイクロ バス	自宅	自宅	公営火葬場	寺の納骨堂→集落の墓地
アルコール 綿	親族	体全体	親族	馬車	自宅	自宅	野辺で火葬	寺の納骨堂
お湯水不明 脱脂綿	親族	体全体	親族	葬儀社のマイクロ バス	自宅	自宅	公営火葬場	寺の納骨堂
お湯 タオル 逆水 不明	親族	体全体	親族	集落のトラック	自宅	自宅	公営火葬場	集落の墓地→芽室墓地
アルコール 布	葬儀社	口元	なし	遠方で死亡。骨仏	自宅	自宅	公営火葬場	集落の墓地
アルコール 綿	葬儀社	体全体	親族	霊柩車	自宅	自宅	公営火葬場	自宅→寺の納骨堂
アルコール 綿	親族	体全体	親族	霊柩車	寺	寺	公営火葬場	寺の納骨堂
アルコール 綿	不明	体全体	親族	霊柩車	寺	寺	公営火葬場	寺の納骨堂
お湯 脱脂綿	親族	顔・体	親族	不明。霊柩自動車 か葬儀社のバス	自宅	自宅	公営火葬場	集落の墓地
アルコール 脱脂綿	葬儀社	体全体	不明	霊柩車	寺	寺	公営火葬場	集落の墓地
お湯 綿	親族	顔	親族	霊柩車	寺	寺	公営火葬場	寺の納骨堂→つつじが丘 霊園
水かアルコール 脱 脂綿	葬儀社	体全体	親族	霊柩車	寺	寺	公営火葬場	寺の納骨堂
アルコール 脱脂綿	葬儀社	体全体	不明	葬儀社のマイクロ バス	公民館	公民館	公営火葬場	集落の墓地
アルコール	親族	体全体	親族	霊柩車	寺	寺	公営火葬場	寺の納骨堂
アルコール 脱脂綿	葬儀社	体	葬儀社	霊柩車	寺	寺	公営火葬場	寺の納骨堂→集落の墓地
アルコール 綿	葬儀社	体全体	親族	霊柩車	寺	寺	公営火葬場	集落の墓地→芽室墓地
アルコール 脱脂綿	不明	不明	親族	葬儀社のマイクロ バス	寺	寺	公営火葬場	寺の納骨堂
お湯 脱脂綿	葬儀社	体全体	親族	霊柩車	寺	寺	公営火葬場	寺の納骨堂
液体不明 脱脂綿	親族	口元	親族	霊柩車	寺	寺	公営火葬場	寺の納骨堂
アルコール 脱脂綿	葬儀社	顔	親族と葬儀社	霊柩車	葬祭場	葬祭場	公営火葬場	寺の納骨堂→つつじが丘 霊園
水? 脱脂綿	葬儀社	口元	親族	霊柩車	葬祭場	葬祭場	公営火葬場	寺の納骨堂
アルコール 脱脂綿	葬儀社	顔	親族と葬儀社	霊柩車	葬祭場	葬祭場	公営火葬場	寺の納骨堂
不明	葬儀社	体全体	親族	霊柩車	寺	寺	公営火葬場	寺の納骨堂
アルコール 脱脂綿	葬儀社	顔	葬儀社	霊柩車	葬祭場	葬祭場	公営火葬場	寺の納骨堂→集落の墓地
水 布	親族	体全体	親族	霊柩車	寺	寺	公営火葬場	寺の納骨堂
お湯かアルコール 脱脂綿	葬儀社	体全体	親族	霊柩車	葬祭場	葬祭場	公営火葬場	集落の墓地
アルコール 脱脂綿	葬儀社	顔	親族と葬儀社	霊柩車	葬祭場	葬祭場	公営火葬場	未だ自宅にある
アルコール 布	葬儀社	体全体	親族	霊柩車	葬祭場	葬祭場	公営火葬場	寺の納骨堂
アルコール 脱脂綿	葬儀社	顔	親族と葬儀社	霊柩車	葬祭場	葬祭場	公営火葬場	つつじが丘霊園
アルコール 脱脂綿	葬儀社	体全体	親族	霊柩車	寺	寺	公営火葬場	墓地

凡例

葬儀社関与になる
手前の段階

葬儀社の関与が
入っているもの

アルコール使用

寺の納骨堂に
納める

2. 帯広市域の葬祭業者の関与から見る変化と『資料集成』との比較

(1) 死亡場所の変化について

死亡場所は、自宅から病院へと、1960年に死亡した帯広市街地のD・Kの葬儀から変化が始まっていた。

表2 帯広市の病床数の推移を見てみる。帯広市の病床数は1968年の2,829床までおよそ250床ずつ増加していたのが、1969年には4,215床と急増した。なお、この急増の理由は確認できなかった。その後病床数は増減を繰り返してはいるが、おおよそ病床数は増加し、病院の収容人数は増えていることが読み取れる。帯広市域での死亡場所は、1975年に死亡した帯広市別府のI・Mが病院で死亡したのを境に病院へ変化していた。帯広市の病床数は1972年から一定の割合で増加して、1974年から3,000床を突破する。以後、増加傾向を示す。帯広市域では、1960年代後半に医療を行なう環境が整いだしている。そうしたことによって、死亡場所が自宅から病院へと変化していると考えられる。また、1972年からは一定の割合で増加を示す。医療を行なう環境がさらに整ってきていることが考えられる。

なお、2010年に死亡した帯広市街地のN・K、士幌町のB・Yの二つの事例では、老人ホームでの死亡で、2010年代からこうした変化が現れはじめている。

病院死が自宅死を上回った背景として、関沢まゆみが、国民皆保険が1961年から実施されたことで、看取りの場が家族や親戚中心から病院関係者の参加が見られるようになったことを指摘している。⁽⁴⁾ こうした制度により、病院を利用することが身近なことになったことも、自宅から病院へ死亡場所が変化したことと関係があると考えられる。

話者の証言によると、1948年に死亡した更別村のM・Yの場合は大腸カタルを患い、それが原因で死亡した。M・Yの兄にあたる話者Mによると、病院にいても家にいても同じだからと、母親がおぶって家に連れて帰ったということだった。そして、家を目前にして死んでしまったということである。この他にも、当時はこれから死ぬ人も家に帰りたいたいと言ったのだということだった。1964年に死亡した帯広市別府のW・Tの場合はガンで死亡している。W・Tの息子にあたる話者Wによると、1964年当時は帯広市内にはガンを診ることのできる病院がなく、治療には汽車で札幌まで行かなくてはならなかったということだった。自宅で死亡していた時代は、医療が発達しておらず、設備の充実した病院が近くなかった。そのため、今のように死ぬための医療もなく、死にそうになるとむしろ自宅に帰されたということである。

『資料集成』では、60年代に自宅で死亡していたのが39事例、90年代には23事例だったのが、病院死は60年代が12事例、90年代には31事例へと変化しており、病院での死亡が多くなっている。一方で、90年代にも自宅で死亡するケースも23事例存在し、死亡場所は一律的な変化とは捉えられないようである。

死亡場所は帯広市域では自宅から病院へと変化していた。『資料集成』に見る全国的な傾向でもおおよそ同様の変化を見せているが、90年代にも自宅での死亡が残っていた。

(2) 葬具作りの担当の変化について

葬具作りは、調査を行なった範囲では、1956年に死亡した芽室町のU・Mの葬儀までは家族や親戚、地域の人々が葬具作りを担当していたが、1957年に死亡した帯広市愛国のK・Yの葬儀で葬祭業者による葬具の提供が始まっていた。以後、家族や親戚と葬儀社の提供が混在する状態を経て、1970年に死亡した幕別町のS・Jの葬儀では葬祭業者が葬具全てを提供し、これ以降は、葬祭業者による提供が一般的になっている。

表3十勝地方の葬具・葬儀社数と社名を見てみる。十勝地方の葬儀社数は1967年が15社で、1972年16社となり、以降増加している。葬具作りが葬儀社の担当に変化した時期と、葬儀社の増加の時期がある程度重なっている。

次に表4帯広市の産業別の人口推移を見てみる。帯広市の第一次産業従事者は1950年には9,027人である。また、第二次産業従事者も5,151人いる。一方、第三次産業従事者は11,396人であった。地域の中で行なう第一次産業従事者がまだ多い傾向が見られる。1955年には、第一次産業従事者が9,189人。第二次産業従事者が7,896人。そして、第三次産業従事者が23,359人となる。いずれも増加傾向にある。特に第三次産業従事者は顕著に増加している。1960年には、第一次産業従事者が8,968人。第二次産業従事者が7,864人。第三次産業従事者が28,322人となる。第一次産業と第二次産業従事者は減少し始めて、第三次産業従事者のみが増加している。以降5年ごとに見ていくと、1960年と同様の傾向を示していく。また、帯広市では特に盛んな産業である農業と、サービス業のみに注目してみる。1950年には農業従事者は8,566人である。サービス業従事者は3,286人である。1950年には農業従事者の方がサービス業従事者よりも多数を占めている。1955年には

表2 帯広市の病床数の推移⁽⁵⁾

年代	病床数	年代	病床数	年代	病床数
1955	1,750	1974	3,000	1993	3,890
1956	不明	1975	3,189	1994	3,868
1957	1,605	1976	3,270	1995	3,868
1958	1,599	1977	3,294	1996	3,967
1959	不明	1978	3,400	1997	3,962
1960	不明	1979	3,493	1998	3,899
1961	不明	1980	3,614	1999	4,404
1962	1,854	1981	3,620	2000	3,960
1963	2,287	1982	3,615	2001	3,928
1964	2,293	1983	3,648	2002	3,896
1965	2,530	1984	3,346	2003	4,088
1966	2,705	1985	3,414	2004	4,119
1967	2,762	1986	3,507	2005	3,967
1968	2,829	1987	3,597	2006	3,787
1969	4,215	1988	3,681	2007	3,764
1970	3,407	1989	3,735	2008	3,698
1971	3,418	1990	3,774	2009	3,697
1972	2,839	1991	3,882		
1973	2,959	1992	3,863		

表3 十勝地方の葬具・葬儀社数と社名

年代	数	葬具・葬儀社	参考文献
1967	15	帯広：公益社・帯広はなや・香川商会 足寄：新津葬具店・山岡造花店 池田：中谷花屋 浦幌：村上葬儀屋 音更：野村造花店 上士幌：木下葬具造花店 鹿追：野村葬具造花店 新得：十勝公英社 広尾：斎藤花店 幕別：片山造花店 本別：本別葬儀社 芽室：大多葬具店	日本電信電話公社『釧路・根室・十勝地方職業別電話簿』北海道電気通信局
1972	16	帯広：公益社・帯広はなや・香川商会 浦幌：村上葬儀屋 音更：野村造花店 上士幌：木下葬具造花店 鹿追：野村葬具造花店 清水：伊藤葬儀店 新得：新得葬儀社・新得はなや 大樹：飛岡造花店 広尾：斎藤造花店 本別：本別葬儀社 幕別：片山造花店 陸別：木田仏具店・佐川造花店	日本電信電話公社『釧路・根室・十勝地方職業別電話帳』北海道電気通信局
1977	18	帯広：帯広公益社・帯広はなや 足寄：新津はなや・山岡造花店 浦幌：浦幌葬儀社・浦幌はなや・村上葬儀屋 音更：野村造花店 上士幌：木下葬具造花店 鹿追：野村葬具造花店 清水：伊藤葬儀店 新得：新得はなや・新得葬儀店 大樹：飛岡造花店 広尾：斎藤造花店 本別：梶尾花園・本別葬儀社 幕別：片山造花店	日本電信電話公社北海道電気通信局『十勝地方五十音別電話帳』
1982	18	帯広：帯広公益社・帯広はなや・確信堂・和見冠婚事業協会 足寄：新津葬儀社・山岡造花店 浦幌：浦幌葬儀社・浦幌はなや・村上葬儀屋 音更：野村葬具造花店 上士幌：木下葬具造花店 鹿追：野村葬具造花店 清水：伊藤葬儀店 新得：新得花店 大樹：飛岡造花店 広尾：広和堂 本別：本別葬儀社 幕別：片山造花店	日本電信電話公社北海道電気通信局『十勝地方職業別電話帳』
1987	19	帯広：帯広公益社・帯広はなや・香霊社・十勝典礼・富士葬儀社・ベルコ・和見冠婚事業協会 足寄：新津葬儀社・山岡造花店 浦幌：浦幌はなや・村上葬儀屋 音更：野村造花店 鹿追：野村葬具仏具店 清水：伊藤葬儀店 新得：新得花店 大樹：飛岡商店造花部 広尾：広和堂 本別：本別葬儀社 陸別：木田葬儀社	日本電信電話株式会社北海道電話帳事業部『タウンページ十勝地方版』
1992	21	帯広：帯広公益社・帯広はなや・梶尾花園・香霊社・富士葬儀社・ベルコ・北海霊寝社・和見冠葬事業部 足寄：新津葬儀社・山岡造花店 浦幌：浦幌はなや・村上葬儀屋 音更：野村造花店 鹿追：野村葬具仏壇店 上士幌：木下造花店 清水：伊藤葬儀店 新得：新得はなや 大樹：飛岡商店造花部 広尾：広和堂 本別：本別葬儀社 陸別：木田葬儀社	日本電信電話株式会社北海道電話帳事業部推進部『タウンページ十勝地方版』
1997	22	帯広：帯広公益社・帯広はなや・梶尾花園・精霊社・特Qフォート・富士企画・ベルコ葬祭部・北海霊寝社・和見冠葬事業協会 足寄：新津花店・山岡造花店 浦幌：浦幌はなや・村上はなや 音更：野村葬祭 鹿追：野村葬具仏壇店 上士幌：木下はなや 清水：いとう葬祭部 新得：新得はなや 大樹：飛岡商店造花部 広尾：広和堂 本別：本別葬儀社 足寄・上士幌・陸別：珍樹園葬祭センター	日本電信電話株式会社北海道電話帳事業推進部『タウンページ十勝地方版』
2002	23	帯広：NPO法人コブシ会十勝納棺協会・帯広公益社・帯広はなや・梶尾花園・精霊社・特Qフォート・富士企画・ベルコ葬祭部・北海霊寝社・和見葬儀社 足寄：新津花店・山岡造花店 浦幌：浦幌はなや・村上はなや 音更：野村葬祭 鹿追：野村葬具店 上士幌：木下はなや 清水：いとう葬祭部 新得：新得はなや 大樹：飛岡商店造花部 広尾：広和堂 本別：本別葬儀社 足寄・上士幌・陸別：珍樹園葬祭センター	NTT番号情報株式会社北海道支店『タウンページ十勝地方版』
2007	22	帯広：NPO法人コブシ会・帯広公益社・帯広はなや・梶尾花園・精霊社・特Qフォート・富士企画・ベルコ・和見葬儀社 足寄：新津花店・山岡造花店 浦幌：浦幌はなや・村上はなや 音更：のむら葬祭 鹿追：野村葬具店 上士幌：木下はなや 清水：いとう 新得：新得はなや 大樹：飛岡商店造花部 広尾：広和堂 本別：本別葬儀社 足寄・上士幌・陸別：珍樹園葬祭センター	NTT番号情報株式会社北海道支店『デイリータウンページ十勝地方版』

表 4 帯広市の産業別の人口推移⁽⁶⁾

年代	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005
第一次産業	9,027	9,189	8,968	7,145	6,371	4,844	4,630	4,618	4,399	4,002	4,181	3,822
農業	8,566	8,416	8,040	6,259	5,425	4,073	3,910	3,892	3,770	3,519	3,891	3,610
林業	394	730	898	860	914	744	691	698	600	447	280	200
漁業	67	43	30	26	32	27	29	28	29	36	10	21
第二次産業	5,151	7,896	7,864	11,911	12,805	14,151	17,220	16,865	18,339	20,318	19,740	16,241
鉱業	29	61	183	268	208	14	121	108	127	131	70	9,672
建設業	1,528	3,161	4,015	6,129	6,847	8,057	10,561	10,353	11,027	12,745	12,631	9,672
製造業	3,594	4,674	3,666	5,514	5,750	5,980	6,538	6,404	7,185	7,442	7,039	6,494
第三次産業	11,396	23,359	28,322	34,188	42,414	45,647	51,294	55,836	60,051	63,513	60,797	60,183
電気・ガス・水道業	—	—	—	316	331	374	445	385	398	425	230	253
運輸・通信業	2,177	2,985	3,165	3,780	4,516	5,021	5,289	5,332	5,431	5,658	5,721	5,730
卸売・小売業、飲食店	4,243	7,735	11,112	14,025	17,942	19,183	21,665	22,790	23,761	23,686	22,932	22,653
金融・保険業	412	902	1,114	1,732	1,401	1,669	2,050	2,489	2,788	2,591	2,280	2,026
不動産業	—	—	—	—	558	62	659	695	681	639	760	749
サービス業	3,286	6,153	7,221	9,440	12,640	13,405	15,662	18,377	21,240	24,518	22,753	24,729
公務	1,278	5,584	5,710	4,895	5,026	5,373	5,524	5,768	5,752	5,996	6,121	4,403
分類不能の産業	4	—	—	7	72	130	27	77	120	459	1,550	2,065

農業従事者は8,416人と、減少を見せている。サービス業従事者は6,153人と、ほぼ倍増している。1960年には農業従事者は8,040人になり、サービス業従事者は7,221人となる。その差が詰まってきた。1965年には農業従事者は6,259人となり、サービス業従事者は9,440人となる。1960年から1965年の間に、農業従事者数とサービス業従事者数は逆転している。また、農業従事者は1960年から1965年にいたるまでに、およそ1,800人の減少を示している。大多数が地域の中で生業を行っていた時代は、葬式があると地域社会で手伝いをするのができたと考えられる。葬具作りも手伝いの一つで、地域社会の人達が作っていた。それが、第三次産業が多くなり、地域社会の中での農業や工業系等の仕事から、地域の外での会社勤めや公務が多くなったことで、葬式の手伝いをするのが困難になったと考えられる。そのため、葬具作りを地域社会で担当していたのが、葬儀社が担当するように変化したと考えられる。

話者の証言によると、帯広市街地に住み、元々畑作・牧畜農業を営んでいた帯広市街地の話者Eによると、話者らの家は、現在は市街地となった場所にあるが、1960年頃までは畑作農業を行ったり、家畜を飼ったりできる場所だったということである。話者Eや、話者Eの証言したE・S、E・K、E・Yは皆農業で生計を立てていた。ただし、現在では話者の息子達は公務員として働いている。話者自身も現在では、畑作は家の裏で趣味程度に行っているだけで、農業を行っていた土地は、不動産屋への売却を進めているということである。現在の市街地にあるすでに売却済みの土地は、住宅が建設されるなどしていた。次に、話者Yによると、1990年代頃、葬儀社Aが、会員制をとるようになったということである。葬儀社Aは無料の葬祭場の見学会や葬儀の相談会を開いて、その時に会員も募集しているということである。会員になると、葬儀の際、葬具などでワンランク上のものを使用できるということである。そのため、会員になったのだから、葬儀社Aに

頼むということになるのだということである。葬具作りの担当の葬儀社への変化は、生業が地域主体の農業から、会社勤めや公務などのサービス業に変化したことで、集落の中での葬儀の準備を手伝えなくなったことが変化の原因と考えられる。また、葬儀社の会員制の普及が変化の一つの原因になったということも考えられる。

『資料集成』では、葬儀社が葬具を用意するようになるのが、棺は60年代が33事例、90年代には53事例。位牌は60年代が35事例、90年代には47事例。四花は60年代に18事例、90年代には35事例。死装束は60年代が8事例、90年代には35事例となっている。葬儀社によって用意される変化が、棺や位牌の増加に比べて、四花や死装束は特に大きく増加していた。

『資料集成』に見る全国的な傾向では葬具によって変化の様子が異なっていたが、帯広市域と同様に、葬儀社の関与が増加している。

(3) 湯灌・入棺の変化について

湯灌において、お湯からアルコールの使用については、1966年に死亡した帯広市街地のN・Fの葬儀から変化しだす。1979年に死亡した芽室町のF・Iの葬儀でアルコールが使われて以降、ほぼアルコールで身体を拭く事例ばかりとなっている。なお、帯広市域では湯灌といいながらも、液体を湿らせた布で遺体を拭くことを指している。盥の中に入れるなどしてお湯で洗うという時代は確認できなかった。

お湯からアルコールへは、時代と共に少しずつ変化してきている。死亡場所の変化のところでも触れた病床数でも、変化の波は1969年から1971年までの期間を除いて少しずつ増加していた。お湯からアルコールへの変化については、自宅で死亡していた時代は遺体に対する感覚が拭く対象とみなされていたのが、病院の関与によって消毒の対象とみなされるようになったと考えられる。また、この変化とともに、液体の用意も家族や親戚から葬儀社が担当するようになった。葬具・葬儀社数を示した表3を見てみると、十勝地方の葬儀社数は1967年が15社で、以後増加する傾向があった。葬儀社や葬具店の増加が湯灌の液体を用意する担当が葬儀社へと変化した要因と考えられる。加えて、表4から生業の変化も関係していると考えられる。1975年には第一次産業従事者が4,844人と減少しているのに対し、第三次産業従事者は45,647人と圧倒的に多くなっている。地域社会の外で働く者が多くなり、葬儀の手伝いが難しくなったことが考えられる。液体についても、用意する人出が足りなくなったことが考えられる。そうしたことから、葬儀社を頼るように変化したのだと考えられる。

一方で変化しないものもある。湯灌や入棺を担当する者である。湯灌で死者の身体を拭くのは家族と親戚である。湯灌の担当が葬祭業者であるというのは、1958年に死亡した帯広市愛国のH・Aの葬儀。1985年に死亡した帯広市愛国のH・Kの葬儀。2000年に死亡した帯広市街地のO・Tの葬儀。2002年に死亡した帯広市愛国のH・Hの葬儀である。

また、入棺で、死者を棺に入れるのも家族と親戚の役目である。ただし、入棺については1991年に死亡した帯広市街地のT・Nの葬儀で入棺の担当に家族や親戚の他に葬祭業者が加わってから、葬祭業者が関与するようになってくる傾向も見られるが、その中でも家族と親戚が関わり続けており、死者に直接触れる作業は家族や親戚の役割と考えられているのだと見られる。

話者の証言によると、帯広市愛国の話者 H の証言した葬儀の内、1948 年に幕別町で死亡した S・T、1970 年に幕別町で死亡した S・J の葬儀や、話者 Y の証言した葬儀の内、1950 年代に芽室町で死亡した Y・K の葬儀の際には、遺体はアルコールで拭くものだという知識があったと述べていた。そもそもどうしてアルコールを使用するようになったのか、その理由は確認できなかったが、葬儀社が加わる前から、遺体をアルコールで拭く知識があったということである。

また、湯灌を行なう担当や、入棺を自分達で行なっている話者達は、皆が体を拭いたり、遺体を棺に入れたりするのはごく自然なことだという認識があった。死者と体を密着させる遺体を拭く作業は、家族や親戚などの身内が行なうということが当然であるという考えがあることがうかがえる。

湯灌は『資料集成』では、家族や親戚が担当していたのが 60 年代には 48 事例で、90 年代には 31 事例である。湯灌を家族や地域社会の人々が関与せず、葬儀社や病院に依頼しているのは 60 年代には 2 事例にすぎないが、90 年代には 16 事例と増加している。帯広市域では湯灌は家族や親戚の仕事であるが、『資料集成』では、葬儀社の仕事に変化していた。

湯灌に使う液体について『資料集成』では、湯灌の方法や液体については、逆水でお湯を作るとか、使う液体や何で拭くかなど、詳しく記述する項目はなかった。記述されているもののみを見ても、60 年代には盥の中ですり洗ったり、盥や桶などで逆さ水により作ったりしていたのが、90 年代にはアルコールや消毒液などを使用して清拭するだけに変化している。盥の中ですり洗ったり、盥や桶などで逆さ水により作ったりしていたのは 60 年代が 19 事例、90 年代には 7 事例で、お湯をかけたり、お湯やアルコールで拭いたりするだけなのは、60 年代が 30 事例、90 年代が 35 事例である。湯灌に使用する液体は、お湯であるのが 60 年代には 33 事例、90 年代には 16 事例である。アルコールを使用するのは 60 年代には 10 事例、90 年代は 15 事例あった。なお、液体を用意するのが、家族や親戚であるのは 60 年代には 35 事例、90 年代は 14 事例だった。葬儀社や病院が用意するのは、60 年代は 3 事例、90 年代は 20 事例である。

湯灌の方法や使用する液体は『資料集成』では、盥などを使う洗い方は減少し、湯灌はアルコールなどによる清拭へと変わりつつあったことが確認できた。液体を用意するのも、家族や親戚が減少し、葬儀社や病院が増えており、帯広市域と同様の変化を示していた。

入棺の担当は『資料集成』では、家族や親戚が担当するのは、60 年代が 50 事例、90 年代が 43 事例である。葬儀社が僅かでも関与しているのは 60 年代が 2 事例、90 年代には 9 事例で、葬儀社の関与へと変化しつつある様子が読み取れる。帯広市域では 90 年代から入棺の担当に葬儀社が関与し始めてはいるが、変化はゆるやかで、『資料集成』に見る全国的な傾向でも葬儀社の関与は少ない傾向にある。

(4) 遺体の墓地や火葬場への運搬方法の変化について

遺体の運搬方法は、1946 年に死亡した更別村の M・Y から 1956 年に死亡した芽室町の U・M の葬儀まで徒歩で運んだり、集落で用意した馬車や馬轎を使ったりして運んでいた。次に、葬儀社と集落の車両が同時に存在する時代になる。これは、1957 年に死亡した帯広市愛国の K・Y の葬儀で、葬儀社の用意したマイクロバスが使われてから、1964 年に死亡した芽室町の U・R の葬儀で集落のトラックが使われた時期までである。葬儀社は、1957 年頃から僅かに関与し、霊柩車へ

の転換期が1966年に死亡した帯広市域のN・Fの葬儀頃と考えられる。これ以降、主に葬儀社の霊柩車が利用されるようになった。

表5の帯広市の貨物自動車保有台数の推移を見てみる。帯広市の貨物自動車保有台数は、1958年までおよそ1,500台程度だった。1959年に2,063台になり、初の2,000台を突破。以後、1963年に3,654台になるまで、年に400台程度ずつ増加している。このような、貨物自動車の増加により、徒歩や馬車・馬櫓での遺体の運搬から、集落の車両や、霊柩車で運搬するように変化したと考えられる。貨物自動車は1964年には5,423台と急増し、霊柩車への転換期の1966年と近い点から、貨物自動車が増加したことで、運搬方法は霊柩車に変化したと考えることができる。また、先行研究を確認してみると、村上興匡は、大正期東京では、交通機関の発達により、葬列が徐々に行なわれなくなったと述べている。交通事情の変化が、葬列の廃止の原因となっていることが指摘されている⁽⁷⁾。帯広市域の場合は、徒歩による野辺送りが少ないという特徴があった。また、東京ではこうした変化が大正期に起こったことと比べて、帯広市域の変化は昭和の半ばだった点も確認できた。

なお、こうした変化には、集落と墓地や火葬場までの距離が遠いという、帯広市域の特徴も関係していることが考えられる。帯広市愛国と帯広市別府の集落と墓地の位置関係を例にとってみると、帯広市愛国では集落から墓地までおよそ1.2キロ。帯広市別府では、集落から墓地まではおよそ2.5キロから3キロ程度の距離がある。また、場所によっては、自宅から火葬場や墓地もまた遠くなってしまう特徴もあった。公営火葬場や墓地が遠方にできてきたことも、変化の原因の一つであると考えられる。さらに、産業別人口を示した表4を見てみると、農業従事者数は1965年以降、5年単位でおよそ1,000人ずつ減少していた。サービス業は1,000～3,000人規模で増化していた。1965年以降は、貨物自動車の普及と、生業が地域主体の農業から、サービス業に変化したことで、集落の中での葬儀の準備が難しくなったと考えることができた。霊柩車の場合も同様で、集落の中で馬車や馬櫓、あるいはトラックなどを用意するのが難しくなり、葬儀社の用意した霊柩車の利用へと変化していったのだと考えられる。

話者の証言によると、1953年に死亡した帯広市清川のO・Kは、帯広市街地で死亡していた。話者Oによると帯広市郊外の農村部にある清川地区の自宅ヘジープで遺体を輸送したくても、雨で道が悪くて一日帰れなかったと証言している。また、帯広市街地の話者Eや話者Yなどによると、現在の帯広市街地も、昭和40年代までは農村地帯で、雨が降るとぬかるみができて、歩くのが不便であったということである。雨程度で歩くだけでも不便を感じるような場所で、遺体を徒歩で葬列を組んで搬送するのは難しいことだったと考えられる。そうした土地の特徴が、元々徒歩での野辺送りがなくと結び付いた原因の一つと考えられる。そのため、足場が悪くても比較的対応できる馬車を利用したのだと考えられる。なお、帯広市街地の話者Eや帯広市別府の話者Aによると、自分たちよりも上の世代から、昔は自宅の敷地内に墓のある家や、集落のはずれで火葬をしていたと聞いているということだった。

『資料集成』では、火葬場や土葬場所への遺体の搬送方法は、60年代には徒歩で葬列を組んで行っていたのが、90年代には一部で霊柩車を利用するように変化している。葬列を組んで歩いて運んでいたのは60年代が48事例だが、90年代には23事例と半減していた。一方、霊柩車の利用は、60年代は6事例であるのに対し、90年代には28事例となっている。霊柩車を60年代から使用し

表5 帯広市の貨物自動車保有台数の推移⁽⁸⁾

年代	貨物自動車	年代	貨物自動車	年代	貨物自動車
1955	1,146	1974	11,994	1993	19,234
1956	1,275	1975	12,831	1994	19,305
1957	1,680	1976	14,492	1995	19,354
1958	1,680	1977	15,254	1996	19,409
1959	2,063	1978	16,228	1997	18,963
1960	2,416	1979	16,749	1998	18,616
1961	2,891	1980	17,378	1999	18,385
1962	3,038	1981	17,264	2000	18,045
1963	3,654	1982	17,360	2001	17,891
1964	5,423	1983	17,189	2002	17,618
1965	6,099	1984	17,079	2003	17,361
1966	6,634	1985	16,894	2004	17,335
1967	7,141	1986	16,796	2005	17,181
1968	6,857	1987	17,074	2006	16,888
1969	7,008	1988	17,733	2007	16,574
1970	7,588	1989	18,492	2008	15,893
1971	8,139	1990	18,950	2009	15,771
1972	9,266	1991	19,055		
1973	10,620	1992	19,190		

ているのは、北海道常呂郡訓子府町清住第3班を含む6事例である。その6事例中に北海道が含まれていることから、北海道自体が霊柩車を利用することが早かった地域であると考えられる。

帯広市域では60年代にはすでに霊柩車を使用するように変化していたが、『資料集成』に見る全国的な傾向では、90年代には葬列を組んで歩くという事例も残存していた。

(5) 通夜・葬儀を行なう場所の変化について

通夜や葬儀の場所において、自宅で行なっていたのは1971年に死亡した帯広市別府のW・Tの葬儀までである。寺での葬儀が行なわれ始めるのは、1969年に死亡した帯広市街地のM・Nの葬儀からで、1991年に死亡した帯広市街地のD・Sの葬儀まで続き、以降は少なくなる。葬祭場の利用は1991年に死亡した帯広市街地のT・Nの葬儀からである。以降は葬祭場で通夜や葬儀を行なうのが一般的になっている。

前述した表3での葬具・葬儀社数は、十勝全体で年々増加傾向にあり、葬儀社が増加したことで、葬祭場という施設も普及してきたと考えられる。また、表4で産業別の人口を確認してみると、1965年頃には第一次産業従事者は7,145人。第二次産業従事者は11,911人と、第一次産業従事者が第二次産業従事者に追い抜かれていて、元々多かった第三次産業従事者は34,188人と、他の産業との間に大きな差ができていく。第一次産業のような地域社会の中での生業から、第三次産業や一部の第二次産業の従事者が、地域の外で働くことが多くなったことが、自宅から寺へという変化

の原因となったことが考えられる。1969 年頃からの自宅から寺への変化や 1991 年の葬祭場の利用は、産業人口の変化がさらに進み、地域の外での人付き合いが多くなったことにともなって、葬儀に出席や弔問に訪れる人も増え、サービスが充実し、広い空間を確保できる葬儀社経営の葬祭場を求めたのだと考えられる。

話者の証言によると、帯広市街地の話者 E や、帯広市愛国の話者 H は、かつて農業で生計を立てていて、現在はいわゆるサービス業が生業となっている。そうした者の証言によると、葬儀への参加者は、農家時代は親戚と合わせて、地域社会の中の人を手伝い、同時にお悔みするので、皆知っている顔だったということである。死者の生前の職業が会社員とか公務員になると、地域社会の中の人に加えて、職場の同僚や上司、部下など、名前は知っていても顔を知らない人や、まったく知らない人が通夜や告別式に参加するようになり、参加者の人数も昔と比べて圧倒的に増えたということである。話者 E によると、通夜や葬儀の場所が 1970 年代から 1980 年代の間に自宅から寺へ変化したのは、自宅の台所では、参加者全員の料理を賄うには狭かったため、寺の大きな台所を使うようになっていったからだということである。また、帯広市街地の話者 S によると、いつかははっきりと記憶していないが、徐々に自宅の形状が変化してきたから自宅から寺や葬祭場へ変化したということである。かつて自宅は開け放つことができる構造で作られていたが、現在はそうした構造の家はなくなってきたということだった。そのため、自宅に大勢の人を入れられなくなったということである。加えて、帯広市街地の話者 Y によると、自宅で葬儀を行っていた時代は、家に入りきらないと、簞笥などを外に出すなどして人を入れたということである。それでも入らない場合は、家の外でお経だけを聞く形になったということである。冬なら庭先で薪を燃やしたりして暖を取りながら行なったのだということである。しかし、それでは外の人が寒いので、1950 年代頃に寺の檀家などが発起人になり、寺に「会館」を作る提案が出された。「会館」とは、大きな台所付きの広間のことだということである。自分達でお金を出し合って作った施設なので、この後葬儀を出した家から順にすんなりと寺に変わったということだった。参加者が地域社会の中の人と、職場関係の人間が参加するようになったことによって、自宅では参加者が入りきらなくなり、寺へ変化したと考えられる。また、家屋の形状の変化や、冬期間の屋外での待機の過酷さから寺に「会館」を作っていったことも変化の原因であると考えられる。

次に、葬祭場への変化である。参加者が増加したというのは、上記の生業の変化と同様である。加えて、帯広市街地の話者 E、話者 S や、帯広市愛国の話者 H によると、1990 年代頃には、葬祭場ができ、その宣伝もされるようになり、移行していったということだった。葬具の変化の場合と同様、帯広市街地の話者 Y によると、1990 年代頃に、葬儀社が無料の葬祭場の見学会や葬儀の相談会を開いて、相談に行った人はその時に葬儀社の会員になるのだということだった。会員になると、葬祭場での祭壇が、安い値段でワンランク上のものを使用できるということである。会員になると、そうした特典を使わないと損だからということで葬祭場を使用するように変化したということである。自宅や寺から葬祭場へ変化したのは、地域社会の中での仕事から会社勤めが多くなり、社縁的關係者が多く葬儀に参加するようになったこと。そして、葬儀社が葬祭場を宣伝したことや、会員制を設けたことが原因の一つと考えられる。

『資料集成』では、葬儀会場は、60 年代、90 年代ともほとんどの事例で自宅である。葬儀を自宅

で行なうのは 60 年代には 46 事例、90 年代には 40 事例である。自宅外で葬儀を行なうのは 60 年代には 4 事例、90 年代には 11 事例であり、そのうち 90 年代に葬祭場を使うというのは、二つの事例にとどまる。

帯広市域では『資料集成』に見る全国的な傾向と比べ、自宅の外で葬儀を行なうという変化が早く、葬祭場を利用するようになるのも顕著である。

(6) 土葬・火葬の有無について

筆者の調査した範囲では、1939、40 年から 1950 年代までは公営火葬場での火葬と、野辺での火葬が混在していた。1956 年に死亡した芽室町の U・M の葬儀まで野辺での火葬が存在している。1960 年に死亡した帯広市街地の D・K の葬儀からは公営火葬場での火葬で遺体を処理したといわれている。帯広市では公営火葬場が 1938 年 9 月にできている。⁽⁹⁾そのため、筆者の調査した範囲は 1939、40 年以降であるので、すでに公営火葬場が完成して以降のものである。

今回調査した話者の家族の葬式という視点では、家族の中で土葬をした人物がいたという証言は得られなかった。ただし、集落という範囲に広げてみると、帯広市別府で 1928 年から 1961 年にかけて土葬が行なわれていたことを確認できた。

帯広市別府在住の話者 A は、土葬の埋葬の担当を青年団に入っていた時代に体験していた。話者 A によると、土葬は、穴掘りを部落の青年団の内の二人が担当したということである。担当者は青年団の中で順番に回すのだという。穴を掘る深さは六から七尺くらいだったということである。話者 A は、棺が到着する前に穴を掘るのか、棺と一緒に行動して、墓地で穴を掘るのかということころまでは覚えていなかった。穴を掘ると、鉋をかけない四分板で作った棺に入れた遺体を棺ごと、青年団の二人が穴に入れて、土をかけて埋めたのだという。家族の者が土をかぶせることはないということである。自分の家族に土をかぶせるなんて、悲しいことはできないという考えがあったということである。なお、遺体を納める場所は、昭和 30 年頃までは人によって異なり、別府墓地に埋葬したという人もいれば、自分の家の畑の隅に埋葬した人もいたということである。残された人の気持ちによって違ったということである。

また、話者 A の先祖は宮城県から移住してきたということである。話者 A は、本家のある仙台や、親戚のいる山形で行なった葬儀にも参加したことがあるということである。仙台や山形で参加した葬儀は土葬で、棺を埋めた場所に、青竹を通したということである。中で生きていることもあるかもしれないからだということである。しかし、別府の土葬では、竹を通すことを知識として持っている人はいたが、やらなくてもいいだろうということで、行なわれなかったということである。話者 A が行なった土葬は、本州の母村の習俗が全て受け継がれず、一部で変化していた。

次に、野焼きの方法についてである。話者 A は青年団時代に、野辺での火葬も行なっている。別府では、昭和 30 年代まで土葬や火葬が混在していた。土葬や火葬のどちらにするかということを決めるのは、死者の出た家の人間だということである。話者 A によると、1936 (昭和 11) 年の野辺での火葬は、話者 A を含め、青年団の若い男が 2、3 人で行なったということである。この担当も、青年団の中で順番に回したということである。火葬はまず、竈を固定させるために柏の木を六尺に切ったものを二本用意する。これに竈を乗せるということである。燃やすための燃料となる

木は柏である。柏の木を一片が六寸になるように三角の薪を作る。この燃料を三方六(サンポウロク)と言う。これが八十五本で一敷という単位になる。一敷の薪で、人が一人焼けたということである。火葬する場所へは、棺を持って家族や親戚がやってくる。棺を置くと家に戻るということである。家族や親戚は焼くところは決して見ないということである。火をつけるのも青年団の役割だったということである。焼き始めると、遺体の腹の辺りは焼けづらいので、木の板をてこにして、火の中の遺体をひっくり返して、全体が焼けるように調節するということである。夜に焼き始めて、朝まで焼き続けるということである。焼いている最中は料理も酒も飲まなかったということである。焼くのに忙しくて、料理なんか食べる暇がなかったということである。

『資料集成』では、60年代の土葬から90年代には火葬に変化した。60年代に土葬を行っていたのは30事例で、90年代は5事例になった。野焼きは60年代が8事例で、90年代にはなくなった。公営火葬場を利用した火葬は60年代には11事例で、90年代には47事例になった。90年代には、ほとんどが公営火葬場での火葬になっていた。

帯広市域のほうが、公営火葬場への変化が早かったといえる。時間の差はあるが、帯広市域と『資料集成』に見る全国的な傾向はともに、公営火葬場への変化が起きていることが確認できた。

(7) 納骨(埋骨)場所について

遺骨を納める場所は、筆者の調査した帯広市域の事例では37事例中24事例で寺の納骨堂に納めていた。屋外の墓地に遺骨を納めたのは11事例である。寺の納骨堂に収められるのが一般的であるのは、帯広市域が本州と比べて雪が積もるという問題を持っていたことが原因の一つと考えられる。雪が積もったことで、除雪が行なわれる都市部の墓地を除いて、屋外の墓地へは12月から4月までのおよそ半年間お参りすることができない。こうしたことが、屋内の寺の納骨堂に遺骨を安置した一つの理由と考えることができる。

話者の証言によると、寺の納骨堂に遺骨を納めている内の、帯広市愛国の話者H、帯広市街地の話者Sは、納骨堂だと季節に関係なくお参りに行けると言っている。冬期や、春の彼岸などに墓参りをするのが困難な気候条件が、寺の納骨堂という、屋内に納骨場所を作った一つの要因であると考えられる。

『資料集成』では全ての事例で屋外の墓地に遺骨を納めていた。

帯広市域では寺の納骨堂に遺骨を納めるのも一般的である。一方で『資料集成』に見る全国的な傾向では、屋外の墓地に遺骨を納めたり、埋葬したりするのが一般的だった。

3. 帯広市域の料理の変化と『資料集成』との比較

(1) 料理の担当の変化

葬儀に用いられる料理については、1983、4年に死亡した帯広市川西のO・Yの葬儀まではほぼ地域の人々の担当だったが、1985年に死亡した帯広市愛国のH・Kの葬儀では仕出し屋が関与し始めて、以降は仕出し屋の関与が一般的になっている。

話者の証言によると、2006年に死亡した帯広市別府のA・Mの証言をした話者Aによると、死者が出るとまず仕出し屋が営業にくるということである。地域の人々に手伝わせると迷惑がかかる

表6 帯広市域の料理の変化とその時期※1

番号	話者	死者の名前と 生年・死亡年	通夜 の料理	担当	葬儀当日 の料理	担当	火葬場 での飲食	担当	終了後の もてなし	担当
1	T (1935)	T・Y (1872～1939, 40)	米飯・酒	地域社会	米飯	地域社会	米飯・酒	地域社会	料理と酒	親族か 地域社会
2	M (1931)	M・Y (1940～1946)	米飯・酒	地域社会	米飯・酒	地域社会	飲食した。献 立不明	地域社会	不明	不明
3	H (1933)	S・T (1868～1948)	米飯・酒	地域社会	米飯	地域社会	米飯・酒	地域社会	不明	不明
4	N (1941)	B・T (1900頃～1940年代)	米飯・酒	地域社会	米飯・ 酒・魚 ※3	地域社会	米飯・酒	地域社会	米飯・酒	地域社会
5	O (1931)	O・K (1898～1953)	米飯・酒	地域社会	米飯	地域社会	死亡場所の近 くの人だけで 火葬した	なし	不明	不明
6	E (1931)	U・M (1896～1956)	米飯・酒	地域社会	米飯	地域社会	自宅で米飯・ 酒	地域社会	不明	不明
7	K (1920頃)	K・Y (1891～1957)	米飯・酒	地域社会	米飯	地域社会	米飯・酒	地域社会	米飯・酒	親族
8	H (1933)	H・A (1905～1958)	米飯・酒	地域社会	米飯	地域社会	米飯・(酒は 不明)	地域社会	行なった。献立 不明	地域社会
9	Y (1921)	Y・K (1872頃～1950年代)	米飯・(ど ぶろく) ※2	地域社会	米飯	地域社会	自宅で米飯・ 酒	地域社会	土産	親族
10	S (1925頃)	D・K (1900～1960)	米飯・酒	不明	米飯	地域社会	米飯	地域社会	米飯・酒	不明
11	E (1931)	U・R (1875～1964)	米飯・酒	地域社会	米飯	地域社会	米飯・酒	地域社会	不明	不明
12	W (1925)	W・N (1898～1964)	米飯・酒	地域社会	米飯	地域社会	なし	なし	米飯・酒	親族
13	N (1941)	N・F (1903～1966)	魚・酒 ※3	地域社会	魚・酒 ※3	地域社会	米飯・酒	不明	不明	不明
14	M (1931)	M・N (1896～1969)	米飯・酒	地域社会	米飯	地域社会	米飯・酒	地域社会	米飯・(酒は不 明)	親族
15	H (1933)	S・J (1890頃～1970)	米飯・酒・ 魚※3	仕出し屋	米飯	仕出し屋	米飯・酒	仕出し屋	不明	不明
16	W (1925)	W・T (1898～1971)	米飯・酒	地域社会	米飯	地域社会	米飯・酒	地域社会	不明	不明
17	I (1928)	I・M (1924～1975)	米飯・酒	地域社会	米飯	地域社会	米飯・酒	地域社会	不明	不明
18	T (1935)	T・R (1902～1976)	米飯	地域社会	米飯	地域社会	米飯・酒	地域社会か 仕出し屋	弁当の土産 米飯・酒	仕出し屋
19	E (1931)	E・S (1904～1977)	米飯	地域社会	米飯	地域社会	飲食するが、 献立は不明	地域社会	弁当の土産 米飯・酒	仕出し屋
20	I (1928)	F・I (1894～1979)	酒	地域社会	米飯	地域社会	米飯・酒	地域社会	不明	不明
21	O (1931)	O・Y (1904-1908～1983, 84)	米飯・酒	地域社会	米飯	地域社会	飲食するが、 献立は不明	地域社会	不明	不明
22	H (1933)	H・K (1905～1985)	米飯・魚・ 酒	仕出し屋	米飯・魚	仕出し屋	米飯・酒	仕出し屋	米飯・酒	仕出し屋
23	E (1931)	U・K (1897～1986)	米飯・酒・ 魚・肉	仕出し屋	米飯・ 魚・肉	仕出し屋	米飯	仕出し屋	飲食したか弁 当の土産か不 明 米飯・酒	仕出し屋
24	K (1920頃)	K・K (1896～1988)	米飯・酒	地域社会	米飯	地域社会	米飯	地域社会	献立不明	親族
25	E (1931)	E・K (1929～1989)	米飯・酒	仕出し屋	米飯	仕出し屋	米飯	仕出し屋	弁当の土産 米飯・酒	仕出し屋
26	S (1925頃)	D・S (1905～1991)	米飯・酒	仕出し屋	米飯	仕出し屋	米飯・酒	仕出し屋	米飯・酒	仕出し屋
27	T (1935)	T・N (1905頃～1991)	米飯・魚	地域社会 仕出し屋	米飯	仕出し屋	米飯・酒	仕出し屋	弁当の土産 米飯・酒	仕出し屋
28	E (1931)	E・Y (1897～1998)	米飯・酒	仕出し屋	米飯	仕出し屋	米飯・酒・魚	仕出し屋	弁当の土産 米飯・酒	仕出し屋
29	M (1931)	M・O (1920～1999)	米飯・酒	仕出し屋	米飯	仕出し屋	米飯・酒	仕出し屋	弁当の土産 米飯・酒	仕出し屋

凡例

仕出し屋
関与

魚を使用

土産を
渡す

番号	話者	死者の名前と 生年・死亡年	通夜 の料理	担当	葬儀当日 の料理	担当	火葬場 での飲食	担当	終了後の もてなし	担当
30	O (1931)	O・T (1937～2000)	米飯・酒	仕出し屋	米飯	仕出し屋	米飯	仕出し屋	不明	不明
31	H (1933)	H・H (1933～2002)	米飯・酒・ 魚・肉	仕出し屋	米飯・ 魚・肉	仕出し屋	米飯・酒・ 魚・肉	仕出し屋	菓子折りの土産	仕出し屋
32	K (1920頃)	K・T (1919～2004)	米飯・酒・ 魚	仕出し屋	米飯	仕出し屋	米飯・酒	仕出し屋	献立不明	仕出し屋
33	A (1918)	A・M (1918～2006)	米飯・酒	仕出し屋	米飯	仕出し屋	米飯・酒	仕出し屋	土産。何かは不明	仕出し屋
34	Y (1921)	Y・Y (1947～2007)	米飯・酒・ 魚	仕出し屋	米飯	仕出し屋	米飯・酒	仕出し屋	米飯・酒	仕出し屋
35	N (1941)	N・K (1912～2010)	米飯・ 酒・魚	仕出し屋	米飯・ 魚・酒	仕出し屋	米飯・酒	仕出し屋	弁当の土産 米飯・酒	仕出し屋
36	T (1935)	T・I (1932～2010)	米飯・ 酒・魚	仕出し屋	米飯	仕出し屋	米飯・酒	仕出し屋	弁当の土産 米飯・酒	仕出し屋
37	N (1941)	B・Y (1910～2010)	米飯・ 酒・魚	地域社会・ 仕出し屋	米飯	地域社会・ 仕出し屋	米飯・酒	仕出し屋	弁当の土産 米飯・酒	仕出し屋

※1 ここでは料理の中の特に重要なものとして、米飯・酒・魚・肉を挙げる

※2 どぶろくはアルコール飲料だが、話者によると、どぶろくは酒ではないということである

※3 魚については話者の記憶違いの可能性はある

などと考え、死者が出た時に営業にきた仕出し屋にたのむようになったということだった。他にも、話者Eが1989年に死亡した帯広市街地のE・Kの葬儀の時や、話者Sが1991年に死亡した帯広市街地のD・Sの葬儀の時に仕出し屋が営業に来たと言っている。料理の担当が仕出し屋になるのは葬具作りの変化と比べて遅いが、帯広市街地の話者Eによると、婦人達は専業主婦として地域の中にいて、地域外での会社勤めや公務などにより男は手伝えなくても、女は手伝えたということである。仕出し屋が、死者の出た家に対して営業活動を行ないだしたことが、地域社会で料理を行っていたことから仕出し屋の料理へ変化した原因と考えられる。また、変化の時期が葬具作りと比べて遅いのは、会社勤めや公務によって地域外に働きに行っている男性とは別に、専業主婦である女性は手伝いに参加できたことが原因と考えられる。

『資料集成』では、通夜の料理を用意するのは地域の人々であったのが、一部で仕出し屋が提供するように変化している。地域の人々の提供は60年代が19事例、90年代には22事例。仕出し屋の提供が加わっているのは60年代にはなく、90年代には9事例になっている。なお、これ以降は仕出し屋の利用がさらに増加していくことが予測できる。

帯広市域では1985年から仕出し屋の関与が一般的になってくる。一方『資料集成』に見る全国的な傾向では、増加傾向にあるとはいえ、90年代も地域の人々の関与が一般的であり、仕出し屋の料理提供は進んでいない。

(2) ナマモノの提供

通夜や葬儀当日、火葬場での飲食などに出される料理に使われる食材で、魚などのナマモノは出してはいけないというのが帯広市域でも一般的だった。魚は1940年代に死亡した士幌町のB・Tの葬儀、1966年に死亡した帯広市街地のN・F、1970年に死亡した幕別町のS・Jの葬儀で使用されていた。1970年代までとなると、魚を使用する年代としてはあまりに早すぎ、主に地域社会の人々が料理を提供していた時に魚を使用したということは考えにくい。そのため、話者の記憶違いである可能性も否定できない。それ以降で見ると、1983、4年に死亡した帯広市川西のO・Yの葬儀ま

では魚の使用はない。1985年に死亡した帯広市愛国のH・Kの葬儀から魚が使用されるようになり、以降は魚が使用されることが多くなる。なおこれは、仕出し屋が料理を用意するようになる時期と対応しており、仕出し屋による料理の提供が、魚などのナマモノを避ける観念を薄れさせていったことが考えられる。

話者の証言によると、話者Eは1986年に死亡した芽室町のU・Kの葬儀や、1998年に死亡した帯広市街地のE・Yの葬儀の時、話者Hは1985年に死亡した帯広市愛国のH・Kの葬儀や、2002年に死亡した帯広市愛国のH・Hの葬儀の時に、仕出し屋から頼んでナマモノが出た時も、今はおいしいものを重視して選んでいると納得して、特に不思議な感じはしなかったということである。また、話者Yは2007年に死亡した帯広市街地のY・Yの葬儀の時に、自分はナマモノはあまり使ってはいけないと思ったが、肉や刺身のない精進料理はいまどきはやらないし、子供が嫌いだったりするので、むしろ歓迎されていたと証言していた。料理の提供が仕出し屋の担当になり、仕出し屋がナマモノを提供するようになったが、時代だからと文句を言えなかったことが、ナマモノが提供されるようになった原因と考えられる。

『資料集成』では、通夜の料理で魚が提供されている事例は60年代には2事例だが、90年代には9事例あった。この9事例中3事例が、仕出し屋による料理提供である。家族や親族、地域社会の中で料理を作る場合にも魚が現れてきていることに注目できる。また、この9事例の中には、北海道常呂郡訓子府町清住第3班と、北海道苫前郡羽幌町の北海道の2事例が含まれており、北海道では特に変化が顕著であることがいえる。

帯広市域では1985年以降は魚などのナマモノが提供される傾向にある。『資料集成』に見る全国的な傾向では、90年代に一部でナマモノが提供されるようになり、変化の時期は帯広市域と重なっている。

(3) 葬儀終了後の料理のもてなしの変化

葬儀の終了後には、以前から家族や親戚が参加者を酒や料理でもてなすということが行なわれていた。1969年に死亡した帯広市街地のM・Nの葬儀までは葬儀終了後に家族や親戚が参加者をもてなしていたが、1976年に死亡した帯広市域のT・Rの葬儀からはほぼすべての事例でもてなしをせず、参加者に折り詰めを渡して解散するようになっている。

表7帯広市の自家用自動車保有台数の推移を見ても。自家用自動車保有台数は、1964年に1,583台と、初めて1,000台を突破している。その後年に1,000台程度増加している。1971年には10,898台と、初めて10,000台を突破する。そして1972年には14,074台。1973年は17,803台。1974年には28,346台と急増する。自家用自動車が普及したことにより、自動車を運転する人はもてなしで酒を飲めなくなったため、土産の折り詰めを渡すようになったと考えられる。また、表4で示した1965年以降の第三次産業従事者増加ということもあわせると、地域社会の外で会社勤めや公務をしている者が、葬儀が終わるとすぐに帰るようになったため、多くの時間を葬儀にかけられなくなり、土産を渡して解散するという方法に変化したのだと考えることができる。こうしたことから、葬儀にかける時間の短縮化傾向が見られることが指摘できる。

話者の証言によると、弁当に土産を渡していた1976年に死亡した帯広市街地のT・R、1991年

表 7 帯広市の自家用自動車保有台数の推移⁽¹⁰⁾

年代	乗用自動車	年代	乗用自動車	年代	乗用自動車
1955	133	1974	28,346	1993	65,437
1956	161	1975	24,879	1994	67,794
1957	179	1976	29,865	1995	70,853
1958	177	1977	32,949	1996	73,238
1959	246	1978	35,925	1997	74,737
1960	345	1979	38,768	1998	75,983
1961	473	1980	41,246	1999	76,868
1962	676	1981	42,735	2000	77,641
1963	968	1982	44,107	2001	78,021
1964	1,583	1983	45,657	2002	78,048
1965	2,283	1984	46,736	2003	77,799
1966	2,898	1985	47,586	2004	77,680
1967	4,266	1986	48,406	2005	77,013
1968	5,898	1987	50,161	2006	75,486
1969	7,106	1988	52,701	2007	73,348
1970	8,812	1989	55,995	2008	71,828
1971	10,898	1990	58,471	2009	70,801
1972	14,074	1991	60,433		
1973	17,803	1992	62,856		

に死亡した帯広市街地の T・N, 2010 年に死亡した帯広市街地の T・I の葬儀の様子を証言した話者 T や, 1977 年に死亡した帯広市街地の E・S, 1989 年に死亡した帯広市街地の E・K, 1998 年に死亡した帯広市街地の E・Y の葬儀の様子を証言した話者 E, 1999 年に死亡した帯広市街地の M・O の葬儀の様子を証言した話者 M, 2002 年に死亡した帯広市愛国の H・H の葬儀の様子を証言した話者 H, 2007 年に死亡した帯広市街地の Y・Y の葬儀の様子を証言した話者 Y などは, 変化の理由として同様のことを述べている。話者らによると, 昔は葬儀と言えば酒がつきもので, 家も農家ばかりの時代は, 歩いて帰ることができたので差し支えなかったが, 会社勤めにともなう通勤などで家が遠方になり, 酒を飲んでから自動車に乗って事故でも起こされたら困るからだと言っている。また, 話者 E は, 会社勤めで遠方に出ている人などで, 早く帰りたい人を引きとめるのはすまないから土産を渡すようになったと言っていた。自動車を運転する者は酒を飲むことができないことや, 会社勤めなどで早く帰りたい人もいるというように社会状況が変化していったことが, もてなしがなくなり, 土産を渡して解散するという方法に変化した原因となったのだと考えることができる。

『資料集成』では, 葬儀終了後のもてなしでは, 土産を渡す事例があるのは, 60 年代が 3 事例, 90 年代には 3 事例と, 全国的な傾向では少ないといえる。

帯広市域では 1976 年から土産の折り詰めを渡すようになっているが, 『資料集成』に見る全国的な傾向ではこのような傾向はなく, 家族や親戚が参加者をもてなすのが一般的である。

表 8 『資料集成』の葬祭業者の関与などから見る変化とその時期

番号	事例	年代	死亡場所	棺作りの担当	位牌作りの担当	四花作りの担当	死装束作りの担当	湯灌の担当	湯灌の本式略式※1	使用する液体	液体の用意	洗う範囲	入棺の担当	遺体の運搬	通夜の場所※2	葬儀会場	土葬・火葬	埋葬場所
1	北海道常呂郡訓子府町清住第3班	60年代	病院	地域社会	地域社会	地域社会	親族	親族	脱脂綿で拭く	アルコール	不明	顔	親族	霊柩車	自宅	自宅	公営火葬場	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族・業者等	脱脂綿で拭く	アルコール	葬祭業者	顔	親族	霊柩車(町所有)	寺	寺	公営火葬場	墓地
2	北海道苫前郡羽幌町	60年代	病院	地域社会	地域社会	地域社会	親族	親族	脱脂綿で拭く	アルコール	不明	顔	親族	馬車や馬車で焼き場。その後、徒歩	自宅	自宅	野焼き	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	脱脂綿で拭く	アルコール	葬祭業者	顔・腕	親族	霊柩車	寺	寺	公営火葬場	墓地
3	青森県下北郡東通村	60年代	病院	親族	葬祭業者等	親族	親族	親族	お湯で拭く逆水	お湯	親族	顔髭をそる	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	野焼き	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	親族	お湯で拭く逆水	お湯	親族	顔髭をそる	親族	徒歩の葬列	不明	集会所	公営火葬場	墓地
4	青森県八戸市	60年代	外出先	親族	親族	親族	親族	親族	タオルで拭く逆水	お湯	親族	記述なし	親族	徒歩の葬列	なし	自宅	土葬	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	病院で行なう	不明	病院	記述なし	親族	徒歩の葬列	自宅	自宅	公営火葬場	墓地
5	岩手県宮古市西部	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	親族	親族	タオルで拭く逆水	お湯	親族	体	親族	徒歩の葬列	自宅	自宅	寺の火葬場	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	病院で拭く	不明	病院	記述なし	親族	徒歩の葬列	自宅	自宅	公営火葬場	墓地
6	岩手県下閉伊郡岩泉町	60年代	自宅	地域社会	地域社会	地域社会	親族・地域社会	親族	手拭いで洗う真似	川の水	親族	鼻・口	親族	徒歩の葬列	自宅	不明	土葬	墓地
		90年代	病院	地域社会	地域社会	地域社会	親族・地域社会	親族	手拭いで洗う真似	川の水	親族	鼻・口	親族	徒歩の葬列	自宅	不明	土葬	墓地
7	宮城県牡鹿郡女川町出島	60年代	船上	親族	親族	親族	親族	不明	なし	なし	なし	なし	親族	徒歩の葬列	不明	不明	公営火葬場	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	親族	親族	湯灌はなし家族が拭く	不明	不明	体	親族	徒歩の葬列	不明	寺	公営火葬場	墓地
8	秋田県	60年代	自宅	地域社会	地域社会	地域社会	親族・地域社会	親族	盥で作り脱脂綿で拭く逆水	お湯	親族	髭を剃る	親族	徒歩の葬列	自宅	自宅	火葬場(形態不明)	墓地
		90年代	病院	記述なし	不明	不明	不明	不明	記述なし	記述なし	記述なし	記述なし	不明	不明	不明	不明	記述なし	記述なし
9	山形県東置賜郡高島町	60年代	病院	地域社会・業者等	葬祭業者等	地域社会	地域社会	親族	盥の中で手拭いで洗う逆水	不明	親族	記述なし	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	拭く	アルコール	不明	体の一部	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	公営火葬場	墓地
10	福島県相馬市大坪	60年代	自宅	葬祭業者等	不明	地域社会	親族	親族	手拭いで拭く逆水	お湯	親族	顔や体	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	タオルで拭く逆水	お湯	親族	記述なし	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	火葬場(形態不明)	墓地

番号	事例	年代	死亡場所	棺作りの担当	位牌作りの担当	四花作りの担当	死装束作りの担当	湯灌の担当	湯灌の本式略式※1	使用する液体	液体の用意	洗う範囲	入棺の担当	遺体の運搬	通夜の場所※2	葬儀会場	土葬・火葬	埋葬場所
11	福島県東白川郡矢祭町下石井字頭屋	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	地域社会	なし	なし	なし	なし	なし	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	なし	なし	なし	なし	なし	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
12	栃木県大田原市若草町	60年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	親族	洗い方不明 逆水	お湯	講中	記述なし	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	親族	綿で拭く	アルコール	不明	記述なし	親族	霊柩車まで 葬列を組み歩く	不明	自宅	公営火葬場	墓地
13	群馬県吾妻郡吾妻町大柏木天神 1746	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	親族	親族	タオルで洗う (詳細不明) 逆水	お湯	親族	記述なし	親族・ 地域社会	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会・ 業者等	葬祭業者等	親族	病院 家ではまねごと 逆水	お湯	不明	記述なし	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	公営火葬場	墓地
14	埼玉県所沢市北野町海谷地区	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	親族	盥で作り手拭 いで拭く 逆水	お湯	親族	体	親族	徒歩の葬列	自宅	自宅	土葬	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	なし(病院で 死亡のため)	なし	なし	なし	親族	霊柩車	葬祭場	葬祭場	公営火葬場	墓地
15	千葉県松戸市紙敷中内薄蒲地区	60年代	病院	不明	葬祭業者等	なし	親族	親族	盥で洗う 逆水	お湯	親族	髭剃りの まねごと	親族	徒歩の葬列	自宅	10時 自宅 正午 寺	土葬	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	なし	葬祭業者等	親族	脱脂綿で拭く	アルコール	不明	足など	親族	徒歩の葬列	自宅	13時 自宅 その後 寺	公営火葬場	墓地
16	東京都日野市宮第6組	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	なし	親族	洗い方不明 逆水	お湯	親族	記述なし	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	なし	葬祭業者等	親族	脱脂綿で拭く 逆水	お湯	親族	体	親族	霊柩車	不明	自宅	公営火葬場	墓地
17	神奈川県大和市深見(宮下)	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	なし	地域社会	親族・地域 社会	柄杓でかける 晒切れで拭く 逆水	お湯	ジワケ (地域社会)	記述なし	親族・ 地域社会	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	なし	葬祭業者等	葬祭業者等	病院	不明	病院	記述なし	葬祭業者等	霊柩車	不明	自宅	公営火葬場	墓地
18	山梨県富士吉田市東南部(農村)町	60年代	記述なし	親族	親族	なし	地域社会	親族	盥で作り手拭 いで拭く 逆水	お湯	親族	体	親族	徒歩の葬列	自宅	自宅	土葬	墓寺
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	なし	葬祭業者等	親族	拭く	お湯・アル コール	不明	手足	親族	リヤカー	自宅	自宅	土葬	墓寺

番号	事例	年代	死亡 場所	棺作りの 担当	位牌作りの 担当	四花作りの 担当	死装束作りの 担当	湯灌 の担当	湯灌の式・ 略式※1	使用する 液体	液体 の用意	洗う範囲	入棺 の担当	遺体の運搬	通夜 の場所 ※2	葬儀 会場	土葬・火葬	埋葬場所
19	長野県松本市	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	なし	親族	拭く 逆水	お湯	不明	体	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓寺
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	なし	親族・地域 社会	拭く 逆水	お湯	不明	体	親族・ 地域社会	霊柩車	不明	寺	公営火葬場	墓寺
20	長野県長野市 安茂里小市	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	なし	親族	親族	拭く 逆水	お湯	親族	体・顔	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓寺
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	なし	葬祭業者等	なし	なし	なし	なし	なし	親族	霊柩車	不明	自宅	公営火葬場	墓寺
21	新潟県佐渡郡 相川町関	60年代	病院	地域社会	地域社会	葬祭業者等	親族	親族	盥で洗う (詳細不明) 逆水	不明	親族	記述なし	親族	徒歩の葬列	自宅	自宅	野焼き	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	予め用意	親族	脱脂綿で拭く	消毒液	不明	顔・かみ そりで顔を そる	親族	徒歩の葬列	自宅	自宅	公営火葬場	墓地
22	新潟県上越市	60年代	自宅	地域社会	葬祭業者等	親族	親族	親族	綿で洗浄	アルコール	親族	記述なし	親族	霊柩車まで 葬列を組み 歩く	不明	自宅	公営火葬場	墓地。頭骨 は寺
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	葬祭業者等	親族	洗浄	アルコール	親族	記述なし	親族	霊柩車まで 葬列を組み 歩く	不明	自宅	公営火葬場	墓地
23	静岡県裾野市 富沢 農業・ 稲作地帯	60年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	病院で拭く	アルコール	病院	なし	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	公営火葬場	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族・地域 社会	盥で作リタ オルで拭く 逆水	お湯	親族	記述なし	親族・ 地域社会	徒歩の葬列	不明	自宅	公営火葬場	墓地
24	静岡県磐田郡 佐久間町間圧	60年代	自宅	不明	葬祭業者等	不明	親族	親族	手桶で作リ手 拭いで拭く 逆水	お湯	親族	遺体との み記述	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	親族	手桶で作リ手 拭いで拭く 逆水	お湯	親族	体全体	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	公営火葬場	墓地
25	愛知県春日井 市宗法町宗法	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	予め用意	親族	盥で洗う 逆水	お湯	親族	盥の中で 洗った	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	予め用意	葬祭業者等	葬儀社が拭く	不明	葬祭業者	簡単に拭 く	葬祭業者 等	霊柩車	不明	自宅	公営火葬場	墓地
26	愛知県海部郡 八開村	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	親族	盥で作リ拭く 逆水	お湯	親族	体	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	私的な火葬 場	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	なし	親族	綿で拭く	アルコール	葬祭業者	体	親族	霊柩車まで 葬列を組み 歩く	不明	自宅	公営火葬場	墓地

番号	事例	年代	死亡場所	棺作りの担当	位牌作りの担当	四花作りの担当	死装束作りの担当	湯灌の担当	湯灌の本式・略式※1	使用する液体	液体の用意	洗う範囲	入棺の担当	遺体の運搬	通夜の場所※2	葬儀会場	土葬・火葬	埋葬場所
27	岐阜県揖斐郡坂内村大字広瀬東区三班	60年代	自宅	親族	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	親族	盥に入ったお湯（釜で沸かす）を使い脱脂綿で拭く	お湯	親族	記述なし	親族	徒歩の葬列	自宅	寺	私的な火葬場	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	地域社会	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	盥に入ったお湯（釜で沸かす）を使い綿で拭く	お湯	親族	記述なし	親族	徒歩の葬列	自宅	寺	公営火葬場	墓地
28	富山県砺波市農村地帯	60年代	自宅	葬祭業者等	なし	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	拭く	アルコール	不明	記述なし	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	野焼き	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	なし	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	拭く	アルコール	不明	記述なし	親族	霊柩車	不明	自宅	公営火葬場	墓地
29	石川県七尾市近郊農村地帯	60年代	自宅	葬祭業者等	なし	不明	親族	親族	拭く	お湯	親族	体頭髪を剃る	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	野焼き	自宅に安置。4年目に墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	なし	葬祭業者等	葬祭業者等	なし	なし	なし	なし	なし	葬祭業者等	霊柩車	不明	自宅	公営火葬場	墓地
30	福井県三方郡美浜町菅浜	60年代	自宅	親族	親族	親族	親族	親族	羽釜のお湯を逆手杓でかける。手拭いで拭く逆水	お湯	親族	肩からかけて拭くかみそりで頭の毛も剃る	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	野焼き	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	親族	親族	親族	親族	ガーゼで拭く	消毒液	不明	全身	親族	霊柩車	不明	自宅	公営火葬場	墓地
31	三重県鳥羽市松尾町	60年代	自宅	親族	親族	親族	親族	親族	盥で作り手拭いで拭く逆水	お湯	親族	記述なし	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	親族・業者等	予め用意	親族	ガスで沸かして拭く	お湯	親族	足から順に拭く	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	公営火葬場	墓地
32	京都府亀岡市穂田野町太田	60年代	病院	不明	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	親族	盥に入ったお湯を使う	お湯	不明	記述なし	親族	徒歩の葬列	不明	寺	土葬	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	予め用意	葬祭業者等	病院で行なう	不明	病院	記述なし	親族	霊柩車	不明	寺	公営火葬場	墓地
33	大阪府高槻市東五百住町2丁目	60年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	予め用意	地域社会	タオルで拭く	お湯	斑の女性	体全体	地域社会葬祭業者等	徒歩の葬列	不明	自宅	公営火葬場	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	病院で行なう	不明	病院	記述なし	葬祭業者等	霊柩車	不明	自宅	公営火葬場	墓地
34	大阪府泉佐野市土丸	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	親族	親族	脱脂綿で拭く	アルコール	不明	記述なし	親族・業者等	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	予め用意	葬祭業者等	病院で行なう	不明	病院	記述なし	葬祭業者等	霊柩車まで葬列を組み歩く	不明	自宅	公営火葬場	墓地
35	兵庫県三木市口吉川町	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	親族	脱脂綿で拭く	消毒液	不明	体全体	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	葬祭業者等	葬儀社の簡易のビニール製の風呂で洗う	お湯	葬儀社	記述なし	親族・業者等	霊柩車まで葬列を組み歩く	不明	自宅	公営火葬場	墓地

番号	事例	年代	死亡場所	棺作りの担当	位牌作りの担当	四花作りの担当	死装束作りの担当	湯灌の担当	湯灌の正式・略式※1	使用する液体	液体の用意	洗う範囲	入棺の担当	遺体の運搬	通夜の場所※2	葬儀会場	土葬・火葬	埋葬場所
36	奈良県奈良市中之庄町	60年代	自宅	地域社会	地域社会	地域社会	地域社会	親族・業者等	病院で乾いた手拭いで顔を拭く真似	不明	病院	乾いた手拭いで顔を拭く真似をした	親族	徒歩の葬列	不明	寺	土葬	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	地域社会	親族・業者等	病院で乾いた手拭いで顔を拭く真似	不明	病院	乾いた手拭いで顔を拭く真似をした	親族	リヤカー	不明	寺	土葬	寺墓(墓地)
37	奈良県磯城郡三宅町伴堂	60年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	なし	親族	葬祭業者等	病院で行なう	不明	病院	記述なし	葬祭業者等	霊柩車	不明	自宅	公営火葬場	寺墓(墓地)
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	なし	葬祭業者等	葬祭業者等	病院で脱脂綿で拭く	不明	病院	体全体	親族・業者等	霊柩車	不明	自宅	公営火葬場	寺墓(墓地)
38	和歌山県西牟婁郡中辺路町近露	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	親族	親族	盥に入ったお湯を使い手拭いで洗う	お湯	親族	記述なし	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	葬祭業者等	親族	手拭いで拭く	お湯	親族	記述なし	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	公営火葬場	墓地
39	鳥取県八頭郡智頭町中田	60年代	病院	地域社会	地域社会	地域社会	親族	親族	タオルやぼろ布で拭く	お湯	親族	全身	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	葬祭業者等	葬祭業者等	病院で拭く	不明	病院	記述なし	親族・業者等	霊柩車まで葬列を組み歩く	不明	自宅	町営火葬場	墓地
40	鳥根県能義郡広瀬町	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	葬祭業者等	親族	盥か洗面器で作ったタオルで拭く逆水	お湯	親族	身体	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	斎場の火葬場	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	病院で行なう自宅では洗面器で作ったタオルで拭く逆水	お湯	親族 病院	体	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	公営火葬場	墓地
41	岡山県井原市大江町佐古	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	拭く	アルコール	不明	記述なし	親族	霊柩車	不明	自宅	公営火葬場	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	なし	親族	拭く	アルコール	不明	足の方から上へ上へと拭く	親族	霊柩車	不明	自宅	公営火葬場	墓地
42	広島県広島市安佐北区深川七丁目	60年代	自宅	葬祭業者等	なし	地域社会	親族	親族	ガーゼか手拭いで拭く	不明	不明	記述なし	親族	徒歩の葬列	自宅	自宅	窯の火葬場	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	なし	地域社会	葬祭業者等	葬祭業者等	病院で行なう	不明	病院	記述なし	親族	リヤカー	自宅	自宅	窯の火葬場	墓地
43	山口県長門市仙崎大日比	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	手拭いで拭く逆水	お湯	親族	記述なし	親族	徒歩の葬列	自宅	寺	野焼き	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	カマドからヤカンに移して手拭いで拭く逆水	お湯	親族	顔から拭く	親族	徒歩の葬列	寺	寺	公営火葬場	墓地

番号	事例	年代	死亡 場所	棺作りの 担当	位牌作りの 担当	四花作りの 担当	死装束作りの 担当	湯灌 の担当	湯灌の本式・ 略式※1	使用する 液体	液体 の用意	洗う範囲	入棺 の担当	遺体の運搬	通夜 の場所 ※2	葬儀 会場	土葬・火葬	埋葬場所
44	徳島県美馬郡 脇町大字猪尾 字西上野62-1	60年代	自宅	葬祭業者等	地域社会	地域社会	葬祭業者等	親族	盥で作り簀の上で洗う	お湯	親族	記述なし	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	窯の火葬場	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	地域社会	地域社会	葬祭業者等	親族	盥で作ったお湯で簀の上で洗う 逆水	お湯	親族	記述なし	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	公営火葬場	墓地
45	香川県大川郡 長尾町	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	地域社会	親族	脱脂綿で拭く	アルコール	不明	体	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	野焼き	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	病院で行なう自宅でも湿らせた脱脂綿で拭く	アルコール	不明	頭から足先へと拭く	親族	霊柩車	不明	自宅	公営火葬場	墓地
46	香川県三豊郡 詫間町大字生 里字生里	60年代	外出先	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	親族	逆柄杓で洗う 逆水	お湯	親族	尻は晒しを使う	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	親族	拭く	アルコール	不明	記述なし	親族	霊柩車まで葬列を組み歩く	不明	自宅	公営火葬場	墓地
47	愛媛県周桑郡 丹原町田野上 方筋遣	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	不明	親族	親族	オタで湯をかけ白い布で拭く	お湯	親族	体	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	外出先	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	病院で拭く	不明	病院	記述なし	親族	霊柩車まで葬列を組み歩く	不明	自宅	公営火葬場	墓地
48	愛媛県西宇和 郡瀬戸町大久	60年代	自宅	地域社会	地域社会	地域社会	親族・地域 社会	親族	盥で墓のたわしで洗う	不明	親族	体	親族	徒歩の葬列	自宅	浜辺	土葬	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	盥で墓のたわしで洗う	不明	親族	体	親族	徒歩の葬列	自宅	浜辺	公営火葬場	墓地
49	高知県高岡郡 日高村本郷大 和田（奥組）	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	親族	親族	タオルで拭く	お湯	親族	体	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	病院で洗う	不明	看護婦	記述なし	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	墓地
50	福岡県嘉穂郡 筑穂町大字平 塚5の1組	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	親族	親族	タオルで拭く	記述なし	親族	記述なし	親族	霊柩車	不明	自宅	公営火葬場	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	病院で行なう（方法不明）	不明	看護婦	記述なし	親族	霊柩車	不明	自宅	公営火葬場	墓地
51	佐賀県唐津市 熊原町	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	拭く 逆水	お湯	親族	記述なし	親族	霊柩車まで葬列を組み歩く	不明	自宅	公営火葬場	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	病院で拭く	不明	看護婦	体	親族	霊柩車まで葬列を組み歩く	不明	葬祭場	公営火葬場	墓地
52	熊本県下益城 郡城南町出水	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	葬祭業者等	親族	濡らしたタオルで拭く	不明	不明	不明	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	公営火葬場	納骨堂式の墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	病院で拭く	アルコール	看護婦	記述なし	親族・業者等	徒歩の葬列	不明	自宅	公営火葬場	納骨堂式の墓地

番号	事例	年代	死亡 場所	棺作りの 担当	位牌作りの 担当	四花作りの 担当	死装束作りの 担当	湯灌 の担当	湯灌の本式・ 略式※1	使用する 液体	液体 の用意	洗う範囲	入棺 の担当	遺体の運搬	通夜 の場所 ※2	葬儀 会場	土葬・火葬	埋葬場所
53	大分県東国東 郡安岐町大字 下山口字三郎 丸	60年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	親族	拭く	アルコール	不明	記述なし	親族	徒歩の葬列	不明	内葬礼 は自宅 外葬礼 は墓地	土葬	墓地
		90年代	自宅	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	親族	親族	拭く	アルコール	不明	記述なし	親族	霊柩車	不明	内葬礼・ 外葬礼 共に自宅	公営火葬場	墓地
54	宮崎県西臼杵 郡日之影町大 字岩井川、後 梅集落	60年代	自宅	地域社会	地域社会	地域社会	親族	親族	盥で洗う 顔・頭は布で 拭く 逆水	不明	親族	体全体	親族	徒歩	不明	自宅	土葬	墓地
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	葬祭業者等	親族	病院で行なう 自宅では盥に 入れたお湯で タオルで拭く 逆水	お湯	親族 病院	体	親族	霊柩車	不明	自宅	公営火葬場	墓地
55	鹿児島県熊毛 郡南種子町大 字平山小字広 田	60年代	自宅	地域社会	地域社会	葬祭業者等	地域社会	親族	二つの釜で作 り、かける 石鹼をつけて タオルで拭く	お湯	親族	記述なし	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	土葬	納骨堂式の 墓
		90年代	病院	葬祭業者等	葬祭業者等	葬祭業者等	地域社会	親族	タオルで拭く	お湯	親族	記述なし	親族	徒歩の葬列	不明	自宅	公営火葬場	納骨堂式の 墓

※1 湯灌に用いる道具と洗いや拭き方、お湯の作り方を提示した。記述のないものは、資料集成中に記述のないものである
 ※2 通夜の場所は項目がないため、判明分のみ掲載

凡例	60年代から葬祭業者等 が入りこんでいたもの	60年代から90年代に かけて葬祭業者等が 入ったもの	60年代から アルコール 使用 60年代から 90年代に かけてアル コール使用
----	---------------------------	-----------------------------------	--

表9 『資料集成』の料理の変化とその時期

番号	事例	年代	通夜の料理 ※1	担当	葬儀式当日の 料理	担当	火葬場 での飲食 ※2	担当	終了後の もてなし	担当	葬儀につきも の料理※3	担当
1	北海道常呂郡 訓子府町清住 第3班	60年代	米飯	地域社会	記述なし	記述なし	米飯・酒	地域社会	酒	親族	あり	地域社会
		90年代	魚	地域社会	記述なし	記述なし	仕出し弁当	仕出し屋等	商品券	なし	なし	なし
2	北海道苫前郡 羽幌町	60年代	米飯・酒	地域社会	米飯・酒	地域社会	—	—	酒	親族	あり	地域社会
		90年代	米飯・魚	地域社会	米飯	地域社会	あり	地域社会	不明	不明	なし	なし
3	青森県下北郡 東通村	60年代	米飯・酒	親族	記述なし	記述なし	—	—	あり	親族	米飯・酒	親族
		90年代	仕出し	仕出し屋等	記述なし	記述なし	なし	なし	あり	親族	なし	なし
4	青森県八戸市	60年代	通夜なし	なし	記述なし	親族・ 地域社会	—	—	米飯	親族	あり	不明
		90年代	仕出し・酒	仕出し屋等	記述なし	仕出し屋等	なし	なし	仕出し	仕出し屋等	仕出し・魚	仕出し屋等
5	岩手県宮古市 西部	60年代	米飯	親族	記述なし	記述なし	なし	なし	あり	親族	なし	なし
		90年代	仕出し・米 飯・魚	仕出し屋等	記述なし	記述なし	なし	なし	米飯・酒	不明	あり	地域社会
6	岩手県下閉伊 郡岩泉町	60年代	酒	地域社会	記述なし	記述なし	—	—	記述なし	記述なし	あり	地域社会
		90年代	酒・魚	地域社会	記述なし	記述なし	—	—	なし	なし	あり	地域社会
7	宮城県牡鹿郡 女川町出島	60年代	記述なし	記述なし	記述なし	記述なし	あり	地域社会	酒	親族	記述なし	記述なし
		90年代	酒	親族	記述なし	記述なし	あり	親族	魚	仕出し屋等	なし	なし
8	秋田県	60年代	あり	親族・地域社会	米飯	地域社会	あり	親族	米飯	親族	あり	親族・地域社会
		90年代	記述なし	記述なし	記述なし	記述なし	なし	なし	記述なし	記述なし	記述なし	記述なし
9	山形県東置賜 郡高畠町	60年代	酒	親族・ 地域社会	記述なし	記述なし	—	—	酒・引き出物	親族	あり	親族・地域社会
		90年代	あり	仕出し屋等	記述なし	記述なし	なし	なし	魚・酒	仕出し屋等	あり	仕出し屋等
10	福島県相馬市 大坪	60年代	あり	地域社会	記述なし	地域社会	—	—	記述なし	記述なし	あり	地域社会
		90年代	米飯	地域社会	記述なし	地域社会	なし	なし	魚	地域社会・仕出 し等	米飯	地域社会
11	福島県東白川 郡矢祭町下石 井字頭屋	60年代	酒	地域社会	記述なし	記述なし	—	—	あり	親族	魚(僧侶以外)	地域社会
		90年代	酒	地域社会	記述なし	記述なし	—	—	酒	親族	魚(僧侶以外)	地域社会
12	栃木県大田原 市若草町	60年代	あり	地域社会	記述なし	記述なし	—	—	あり	親族	魚	地域社会
		90年代	魚・酒	地域社会・仕出し等	米飯・魚・酒	地域社会	あり	地域社会	魚	仕出し屋等	あり	地域社会・仕出し等
13	群馬県吾妻郡 吾妻町大柏木 天神 1746	60年代	酒	親族・地域社会	記述なし	記述なし	—	—	米飯・酒	親族	あり	親族・地域社会
		90年代	なし	なし	米飯・酒	親族・地域社会	なし	なし	なし	なし	なし	なし
14	埼玉県所沢市 北野町海谷地 区	60年代	酒	親族	記述なし	記述なし	—	—	酒	親族	あり	地域社会
		90年代	仕出し	仕出し屋等	あり	地域社会・仕出 し等	酒・魚	仕出し屋等	あり	親族	あり	地域社会
15	千葉県松戸市 紙敷中内薄蒲 地区	60年代	米飯・魚・酒	地域社会	記述なし	記述なし	—	—	酒	親族	あり	地域社会
		90年代	米飯	地域社会	記述なし	記述なし	なし	なし	酒・お金	親族	あり	地域社会

番号	事例	年代	通夜の料理 ※1	担当	葬儀式当日の 料理	担当	火葬場 での飲食 ※2	担当	終了後の もてなし	担当	葬儀につきも のの料理※3	担当
16	東京都日野市 宮第6組	60年代	不明	不明	記述なし	地域社会	—	—	魚・酒（壇払い）	地域社会	なし	なし
		90年代	あり	地域社会	記述なし	記述なし	あり	仕出し屋等	魚（壇払い）	記述なし	なし	なし
17	神奈川県大和 市深見（宮下）	60年代	米飯・酒	地域社会	記述なし	記述なし	—	—	酒	地域社会	米飯	地域社会
		90年代	酒	仕出し屋等	記述なし	記述なし	なし	なし	魚・酒・仕出し	仕出し屋等	なし	なし
18	山梨県富士吉 田市東南部 （農村）町	60年代	あり	不明	魚	不明	—	—	酒	親族	魚	不明
		90年代	米飯・魚	親族・地域社会	記述なし	記述なし	—	—	酒	親族	魚	親族・地域社会
19	長野県松本市	60年代	あり	記述なし	記述なし	記述なし	—	—	魚	親族	あり	地域社会
		90年代	米飯	地域社会	米飯	地域社会	なし	なし	さしみ（魚かは 不明）	親族	餅	地域社会
20	長野県長野市 安茂里小市	60年代	酒	親族	記述なし	記述なし	—	—	不明	不明	あり	親族
		90年代	魚・酒	親族・地域社会・仕 出し等	記述なし	記述なし	なし	なし	あり	仕出し屋等	酒	親族・地域社会・仕 出し等
21	新潟県佐渡郡 相川町関	60年代	酒	親族・地域社会	餅	親族・地域社会	—	—	あり	親族・地域社会	餅	親族・地域社会
		90年代	魚・酒	親族	魚・酒	親族	米飯・酒	親族	酒	親族	魚・酒	親族
22	新潟県上越市	60年代	米飯・酒	親族	米飯	親族	米飯・酒	親族	酒	親族	米飯・酒	親族
		90年代	米飯	地域社会	仕出し等	親族・仕出し等	米飯・酒	親族	米飯	親族	米飯	親族
23	静岡県裾野市 富沢 農業・ 稲作地帯	60年代	酒	親族	記述なし	記述なし	米飯・酒	親族	酒	親族	なし	なし
		90年代	酒	親族	記述なし	記述なし	米飯・酒	親族	酒	親族	なし	なし
24	静岡県磐田郡 佐久間町間圧	60年代	酒	地域社会	米飯	親族・地域社会	—	—	魚・酒	親族	米飯	親族・地域社会
		90年代	酒	地域社会	記述なし	記述なし	酒	親族・地域 社会	酒	親族	あり	親族・地域社会
25	愛知県春日井 市宗法町宗法	60年代	記述なし	記述なし	記述なし	記述なし	—	—	酒	親族	米飯・（巻き寿 司：魚かは不 明）	地域社会
		90年代	記述なし	記述なし	記述なし	記述なし	なし	なし	仕出し	仕出し屋等	仕出し	仕出し屋等
26	愛知県海部郡 八開村	60年代	米飯・酒	親族・地域社会	記述なし	記述なし	なし	なし	米飯・酒	親族	米飯	親族・地域社会
		90年代	あり	親族	記述なし	記述なし	なし	なし	酒・仕出し	親族・仕出し等	米飯・（巻き寿 司：魚かは不 明）	親族・地域社会・仕 出し等
27	岐阜県揖斐郡 坂内村大字広 瀬東区三班	60年代	あり	親族・地域社会	記述なし	記述なし	酒	地域社会	魚・肉・酒	親族	あり	親族・地域社会
		90年代	酒・魚？（巻 寿司）	親族・地域社会	記述なし	記述なし	なし	なし	あり	親族	魚	親族・地域社会
28	富山県砺波市 農村地帯	60年代	米飯・酒	親族・地域社会	記述なし	記述なし	—	—	酒	親族	あり	地域社会
		90年代	米飯・酒	地域社会	記述なし	記述なし	なし	なし	あり	親族	あり	地域社会
29	石川県七尾市 近郊農村地帯	60年代	米飯	親族・地域社会	記述なし	記述なし	—	—	反物を配る	親族	あり	親族・地域社会
		90年代	酒	地域社会	記述なし	記述なし	米飯・酒	地域社会	酒・仕出し	仕出し屋等	あり	地域社会

番号	事例	年代	通夜の料理 ※1	担当	葬儀式当日の 料理	担当	火葬場 での飲食 ※2	担当	終了後の もてなし	担当	葬儀につきもの の料理※3	担当
30	福井県三方郡 美浜町菅浜	60年代	あり	親族	記述なし	記述なし	—	—	あり	親族	米飯・(台所の 食事にはナマ モノ使用)	親族
		90年代	酒・(昆布)	親族	記述なし	記述なし	米飯・酒・ 魚	親族	なし	なし	魚	親族
31	三重県鳥羽市 松尾町	60年代	記述なし	記述なし	記述なし	記述なし	—	—	米飯・魚・酒	親族	あり	親族・地域社会
		90年代	酒	不明	記述なし	記述なし	なし	なし	米飯	親族	あり	親族
32	京都府亀岡市 禰田野町太田	60年代	あり	記述なし	記述なし	記述なし	—	—	肉	親族	魚	記述なし
		90年代	あり	記述なし	仕出し	仕出し屋等	なし	なし	記述なし	記述なし	仕出し	仕出し屋等
33	大阪府高槻市 東五百住町2 丁目	60年代	魚・酒	地域社会	あり	地域社会	なし	なし	米飯・酒・仕出し	仕出し屋等	魚	地域社会
		90年代	魚	地域社会	米飯・魚・酒・ 仕出し	地域社会・仕出 し等	なし	なし	米飯・酒・仕出し	仕出し屋等	魚	地域社会
34	大阪府泉佐野 市土丸	60年代	酒	親族・地域社会	記述なし	記述なし	—	—	米飯・酒	親族	あり	親族・地域社会
		90年代	酒	親族・地域社会	記述なし	記述なし	なし	なし	米飯・酒	親族	あり	親族・地域社会
35	兵庫県三木市 口吉川町	60年代	あり	親族・地域社会	あり	地域社会	—	—	酒	親族	なし	なし
		90年代	あり	親族・地域社会	魚か? 仕出 し	地域社会・仕出 し等	なし	なし	仕出し	仕出し屋等	なし	なし
36	奈良県奈良市 中之庄町	60年代	酒	親族	記述なし	記述なし	—	—	餅・酒	記述なし	米飯・魚	地域社会
		90年代	酒	親族	記述なし	記述なし	—	—	餅・酒	記述なし	魚・仕出し	地域社会・仕出し等
37	奈良県磯城郡 三宅町伴堂	60年代	なし	なし	仕出しなど	地域社会・仕出 し等	なし	なし	酒・土産(石鹼)	親族	なし	なし
		90年代	不明	不明	魚・仕出し	仕出し屋等	なし	なし	仕出し・土産(石 鹼)	親族・仕出し等	魚・仕出し	仕出し屋等
38	和歌山県西牟 婁郡中辺路町 近露	60年代	米飯	地域社会	記述なし	記述なし	—	—	酒	親族	米飯	地域社会
		90年代	あり	地域社会	記述なし	記述なし	なし	なし	酒・仕出し	仕出し屋等	なし	なし
39	鳥取県八頭郡 智頭町中田	60年代	酒	地域社会	記述なし	記述なし	—	—	あり	親族・地域社会	あり	地域社会
		90年代	酒	地域社会	記述なし	記述なし	なし	なし	魚	親族	なし	なし
40	島根県能義郡 広瀬町	60年代	なし	なし	記述なし	記述なし	なし	なし	酒	親族・地域社会	なし	なし
		90年代	記述なし	なし	記述なし	記述なし	なし	なし	あり	親族・地域社会	魚	地域社会
41	岡山県井原市 大江町佐古	60年代	記述なし	記述なし	記述なし	記述なし	なし	なし	酒	親族	魚	仕出し屋等
		90年代	あり	地域社会	記述なし	記述なし	なし	なし	酒	親族	あり	地域社会
42	広島県広島市 安佐北区深川 七丁目	60年代	あり	地域社会	記述なし	記述なし	なし	なし	酒	親族	米飯	地域社会
		90年代	あり	地域社会	記述なし	記述なし	なし	なし	酒	親族	米飯	地域社会
43	山口県長門市 仙崎大日比	60年代	米飯	親族	記述なし	記述なし	—	—	なし	なし	あり	親族
		90年代	米飯	親族	記述なし	記述なし	なし	なし	記述なし	記述なし	あり	親族
44	徳島県美馬郡 脇町大字猪尾 字西上野62- 1	60年代	記述なし	記述なし	記述なし	記述なし	なし	なし	あり	親族	あり	地域社会
		90年代	記述なし	記述なし	記述なし	記述なし	あり	地域社会	酒	親族	あり	地域社会

番号	事例	年代	通夜の料理 ※1	担当	葬儀式当日の 料理	担当	火葬場 での飲食 ※2	担当	終了後の もてなし	担当	葬儀につきも の料理※3	担当
45	香川県大川郡 長尾町	60年代	あり	地域社会	記述なし	記述なし	—	—	米飯・酒	親族	あり	地域社会
		90年代	米飯	地域社会	記述なし	記述なし	なし	なし	酒・仕出し	仕出し屋等	なし	なし
46	香川県三豊郡 詫間町大字生 里字生里	60年代	記述なし	記述なし	記述なし	記述なし	—	—	あり	親族	あり	親族
		90年代	記述なし	記述なし	記述なし	記述なし	なし	なし	なし	なし	あり	親族
47	愛媛県周桑郡 丹原町田野上 方筋遣	60年代	酒	親族・地域社会	酒	親族	—	—	なし	なし	なし	なし
		90年代	記述なし	記述なし	記述なし	記述なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
48	愛媛県西宇和 郡瀬戸町大久	60年代	あり	親族・地域社会	記述なし	記述なし	—	—	酒	親族	酒・魚	親族・地域社会
		90年代	あり	親族・地域社会	記述なし	記述なし	なし	なし	酒	親族	酒・魚	親族
49	高知県高岡郡 日高村本郷大 和田（奥組）	60年代	酒	親族	記述なし	記述なし	—	—	酒	親族	あり	親族
		90年代	酒	親族	あり	地域社会	—	—	酒	親族	魚・仕出し	親族・仕出し等
50	福岡県嘉穂郡 筑穂町大字平 塚5の1組	60年代	あり	地域社会	記述なし	記述なし	なし	なし	あり	親族	米飯・酒	地域社会
		90年代	あり	地域社会	記述なし	記述なし	酒	地域社会	なし	なし	あり	地域社会
51	佐賀県唐津市 熊原町	60年代	酒	親族	記述なし	記述なし	酒	親族	（初七日）酒・魚	親族	米飯・酒	親族
		90年代	酒	親族・仕出し等	記述なし	記述なし	酒	親族	（日を改めて）酒	親族	魚	親族・仕出し等
52	熊本県下益城 郡城南町出水	60年代	米飯	地域社会	記述なし	記述なし	米飯・酒	地域社会	酒	親族	なし	なし
		90年代	米飯	地域社会	記述なし	記述なし	なし	なし	（遺族が納骨中） あり	仕出し屋等	記述なし	なし
53	大分県東国東 郡安岐町大字 下山口字三郎 丸	60年代	あり	地域社会	米飯	地域社会	—	—	酒	親族	なし	なし
		90年代	あり	地域社会	記述なし	記述なし	酒	親族	米飯 （三カ日に魚・仕 出し）	親族・仕出し等	なし	なし
54	宮崎県西臼杵 郡日之影町大 字岩井川、後 梅集落	60年代	酒	地域社会	酒	地域社会	—	—	あり	親族	あり	地域社会
		90年代	酒	地域社会	米粉の団子	地域社会	なし	なし	記述なし	記述なし	なし	なし
55	鹿児島県熊毛 郡南種子町大 字平山小字広 田	60年代	酒	地域社会	記述なし	記述なし	—	—	酒	親族	なし	なし
		90年代	記述なし	記述なし	記述なし	記述なし	米飯・酒	地域社会	あり	親族	なし	なし

※1 「通夜の料理」の他は項目がないため、確実な判明分のみ掲載

※2 土葬・野焼きの場合「—」と表記した。野焼きは、焼き番のみが飲食で、内容の趣旨に合わないためである。

※3 資料集成の調査項目にあったため、掲載した

凡例

60年代から仕出し
屋等が入りこんで
いたもの
60年代から90年代
にかけて仕出し屋
等が入ったもの

料理に魚を使
うもの

土産などを
配るもの（終
了後のみ）

表 10 事例数早見表

早見表 1 死亡場所

	1960 年代	1990 年代
自宅	39	23
病院	12	31
その他	3	1
不明（記述なし含む）	1	0
合計	55	55

早見表 2 棺作りの担当

	1960 年代	1990 年代
親族	7	0
地域社会	11	1
葬儀社及び業者・寺	33	53
地域社会と業者	1	0
なし	0	0
不明（記述なし含む）	3	1
合計	55	55

早見表 3 位牌作りの担当

	1960 年代	1990 年代
親族	5	1
地域社会	11	3
葬儀社及び業者・寺	35	47
地域社会と業者	0	0
なし	3	3
不明（記述なし含む）	1	1
合計	55	55

早見表 4 四花作りの担当

	1960 年代	1990 年代
親族	6	3
地域社会	23	8
葬儀社及び業者・寺	18	35
親族と地域社会	0	0
親族と業者	0	1
地域社会と業者	0	1
なし	5	6
不明（記述なし含む）	3	1
合計	55	55

早見表 5 死装束作りの担当

	1960 年代	1990 年代
親族	31	7
地域社会	9	3
葬儀社及び業者・寺	8	35
親族と地域社会	3	1
親族と業者	0	0
地域社会と業者	0	0
予め用意	2	5
なし	2	3
不明（記述なし含む）	0	1
合計	55	55

早見表 6 湯灌の担当

	1960 年代	1990 年代
親族	48	31
地域社会	1	0
葬儀社・病院	2	16
親族と地域社会	1	2
親族と業者	1	2
地域社会と業者	0	0
なし	1	3
不明（記述なし含む）	1	1
合計	55	55

早見表 7 湯灌の本式・略式

	1960 年代	1990 年代
盥いで洗う	6	1
盥や桶などで作ったお湯で拭く	13	6
お湯をかける	3	0
お湯またはアルコールで拭く	27	35
葬儀社のビニール製の風呂	0	1
なし	2	4
不明（記述なし含む）	4	8
合計	55	55

早見表 8 湯灌に使用する液体

	1960 年代	1990 年代
水	1	1
お湯	33	16
アルコール（消毒液含む）	10	15
お湯・アルコール	0	1
なし	2	4
不明（記述なし含む）	9	18
合計	55	55

早見表 9 湯灌に使う液体の用意

	1960 年代	1990 年代
親族	35	14
地域社会	3	0
葬儀社等	3	20
親族・病院	0	2
なし	2	4
不明（記述なし含む）	12	15
合計	55	55

早見表 10 入棺の担当

	1960 年代	1990 年代
親族	50	43
地域社会	1	0
葬儀社等	1	5
親族と地域社会	2	2
親族と業者	1	4
地域社会と業者	0	0
なし	0	0
不明（記述なし含む）	0	1
合計	55	55

早見表 13 葬儀会場

	1960 年代	1990 年代
自宅	46	40
寺	4	8
集会所	0	1
葬祭場	0	2
その他	3	2
なし	0	0
不明（記述なし含む）	2	2
合計	55	55

早見表 16 魚の使用（通夜）

1960 年代	1990 年代
2	9

早見表 11 遺体の運搬

	1960 年代	1990 年代
徒歩	48	23
リヤカー	0	3
霊柩車	4	19
徒歩→霊柩車	2	9
馬車→徒歩	1	0
不明（記述なし含む）	0	1
合計	55	55

早見表 14 土葬・火葬

	1960 年代	1990 年代
土葬	30	5
野焼き	8	0
公営火葬場	11	47
その他の火葬場	6	2
不明（記述なし含む）	0	1
合計	55	55

早見表 17 土産を渡す

1960 年代	1990 年代
3	3

早見表 12 通夜の場所

	1960 年代	1990 年代
自宅	13	9
寺	0	3
集会所	0	0
葬祭場	0	1
その他	0	0
なし	1	0
不明（記述なし含む）	41	42
合計	55	55

早見表 15 通夜の料理の担当

	1960 年代	1990 年代
親族	11	8
地域社会	19	22
仕出し屋	0	6
親族と地域社会	12	5
親族と仕出し屋	0	1
地域社会と仕出し屋	0	1
親族・地域社会・仕出し屋	0	1
なし	3	2
不明（記述なし含む）	10	9
合計	55	55

4. 帯広市域の葬儀の変化の特徴

以上、移住開拓地である帯広市域の変化と『資料集成』に見る全国的な展開とを比較すると、同様の傾向性を示しているものが少なかった。

第一に、死亡場所が自宅から病院になる変化がある。帯広市域では、1975年頃までに少しずつ病院死へ移行し、1980年代以降はほとんどの事例で病院死に変化しており、国民皆保険制度が原因の一つだと考えられる。全国的には1977年に病院死が自宅死を上回っており、これと同様の変化を遂げていた。

第二に、葬具作りの担当についてである。帯広市域では、1940、50年代までは家族や地域社会が中心となり作っていたのが、1957年の葬儀で葬祭業者による提供があり、1970年以降は葬祭業者による提供が一般的になった。地域内での第一次産業、第二次産業から地域の外での第三次産業への移行が原因と考えられ、全国的な傾向とも同様の変化を遂げていた。

次に、全国的な展開と比較して見出された相違点である。

第三に、墓地や火葬場までの遺体の運搬についてである。帯広市域では、元々徒歩による葬列がなく、これは公営火葬場が集落から遠くにできたことが、葬列が行われなかったということの原因の一つと考えることができた。全国的な傾向では、60年代、90年代とも徒歩で葬列を組んで運ぶことが行なわれており、全国的な傾向とは異なった点が確認できた。

第四に、湯灌の担当についてである。帯広市域では、死者の体を拭くということは家族や親戚が行うことが当然であるとして、変化していなかった。全国的な傾向では、葬儀社が担当するように変化しており、帯広市域では全国的な傾向とは異なり、家族や親戚で拭くだけであるという特徴があることが確認できた。

第五に入棺の担当の変化である。帯広市域では、家族や親戚が担当するものとされていたが、1990年代から僅かに葬儀社が担当に加わってきていたが、同時に親族も関わっている。全国的な傾向では、葬儀社へと少しずつ変化している。なお、帯広市域では全国的な傾向とは異なり、葬儀社が関与する中でも、家族や親戚も関わり続ける特徴が確認できた。

第六に遺体の処理についてである。帯広市域では、1950年代までは公営火葬場での火葬と、野辺での火葬が混在し、1960年から公営火葬場の火葬で遺体を処理したといわれている。全国的な傾向では90年代も土葬が行なわれている場所もあり、帯広市域では公営火葬場への変化が早かったことが指摘できる。

次に、移住開拓地である帯広市域の葬儀を追跡することによって、帯広市域の葬儀の特徴を指摘できたものを挙げる。

第七に、帯広市域の気候条件によって遺骨は寺の納骨堂に納めるのが一般的である特徴があった。雪が積もり、冬にはお参りに行けないということが考えられる。全国的な傾向では、全ての事例で屋外の墓地に遺体や遺骨を納めており、寺の納骨堂も一般的であるのは帯広市域の特徴であることが指摘できた。

第八に、料理の担当の変化についてである。帯広市域では1985年頃から仕出し屋による料理提供が一般的になっていた。1980年代には会社勤めの関係で、葬儀の参加者が多かったことで、

人数分の料理を用意することが困難になったことなどが考えられる。全国的な傾向では仕出し屋への変化は僅かで帯広市域の場合、料理提供を仕出し屋が行なうように変化している特徴が指摘できた。

第九に葬儀の料理にナマモノを提供するようになる変化である。帯広市域では話者の記憶違いの可能性もあるが、ナマモノの提供は1940年に行なわれていた。確実な時期でも、1985年頃からナマモノは提供されている。全国的な傾向では、ナマモノはほとんど使用されておらず、帯広市域はナマモノの提供が一般的であることが指摘できる。

第十に、葬儀終了後に家族や親戚が、参加者をもてなさず、土産の折り詰めを渡して解散するという、帯広市域にのみ見られる特徴も確認できた。自家用自動車が増えたことや、会社勤めや公務が多くなり、早く帰らなくてはならない人が増えたことが原因と考えられる。全国的な傾向では、葬儀終了後に土産を渡すことはほとんど行なわれていなかった。

以上、帯広市域の変化とその理由として考えられる社会的要因、話者の証言を挙げ、『資料集成』に見る全国的な傾向との比較も試みてきた。

これまで述べてきた北海道における帯広市域の民俗は、先住していた人々とあわせて、移住と開拓の歴史を持っている。そのため、母村の習俗を移住先で継承しているかが注目されるところである。帯広市域の葬儀は、様々な地域から移住してきて、母村を異にする人々同士が手伝わらないといけないということからも、元々簡略化される傾向が強かったと考えられる。その簡略化の中で、寺の納骨堂に遺骨を納めることが一般的であることや、葬儀終了後に参加者のもてなしをせず土産の折り詰めを渡して解散することなどの帯広市域にしかみられない特徴が創出されたものと考えられることができる。

開拓と移住に伴う母村からの習俗の継承については、今後とも追跡したいところである。

註

(1)——葬儀の諸要素を担当する者が誰なのかということについては、新谷尚紀が提唱した三者分類を参考にしてみた。新谷は『両墓制と他界観』吉川弘文館 1991の中で、葬儀を担当する者は、大きく家族や親族などの血縁の関係者。隣近所や組や講中などの地縁の関係者。檀家寺の住職などの無縁の関係者になると規定している。本稿でも同様に、家族・親戚関係の者。集落の中に住んでいて、相互扶助の関係にある者。そして無縁の関係者に葬祭業者を付け加えるなどして分析してみた。

なお、新谷は『日本人の葬儀』紀伊国屋書店 1992では、『両墓制と他界観』で示した三者分類について、血縁の関係者を「たとえば、死者の家族は四十九日の忌明けまでは重いブクがかかっているとされ、神社参りなどはできない。その後もおよそ一年間は祭礼や正月、盆などの行事でやはり喪中のブクの影響下にある」者。地縁の関係者を血縁の関係者「に対して近隣のクミやムラ

のつきあいをしている家々ではそんなことはない。あくまでも喪家とは別であり、死のブクによる特別な忌みやつつしみを要求されることはない」者。無縁の関係者を「葬式に参列して読経や引導渡しなどをしてくれる寺のお坊さんの場合、それは彼らの職業であり家々の葬式に参列するたびにそのつど一定の忌みの生活を要求されるようなことはない。本来、忌みの生活が彼らにとっては日常なのであり、死のブクからも自由な立場にある」者と分類している。その後、森謙二や関沢まゆみによって、三者分類は活用されていった。

(2)——『死・葬送・墓制資料集成』東日本編 1・2 国立歴史民俗博物館 1999

『死・葬送・墓制資料集成』西日本編 1・2 国立歴史民俗博物館 2000

『資料集成』は全国の都道府県からそれぞれ1, 2事例を抽出した、全60事例から構成されている。この事例

は調査者の関係者からのデータが集中しており、比較的古い習俗を残していると位置づけられる。今回は全60事例のうち55事例を抽出した。1960年代、あるいは1990年代のどちらか一方のみを記述したデータなどは、比較の対象とできないため省いた。また、沖縄県の事例は習俗の内容が北海道や本州とは大きく異なるので省いた。

(3)——高橋史弥「葬送儀礼の変容—北海道帯広市域の場合を中心に—」pp.31-45, 國學院大學伝承文化学会(編)『伝承文化研究』10 2012

(4)——関沢まゆみ『第36回歴博フォーラム 民俗の変容 葬儀と墓の行く方』国立歴史民俗博物館 2001
この中で関沢は国民皆保険が1961年から実施されているとしている。そして、1977年に病院死が自宅死を上回ったことを指摘している。それらを踏まえて、看取り

の場が家族や親戚中心から病院関係者の参加が見られるようになったことを指摘している。

(5)——帯広市役所作成の『帯広市勢要覧』1950～1953,『おびひろ』1954・1955,『市勢要覧帯広』1956,『市勢要覧おびひろ』1958～1960,『帯広市統計書』4-47 1968～2010を参考に作成した。

(6)——註5に同じ。

(7)——村上興匡「大正期東京における葬送儀礼の変化と近代化」pp.37-61, 日本宗教学会(編)『宗教研究』284 1990

(8)——註5に同じ。

(9)——帯広市史編纂委員会『帯広市史(平成15年編)』p.353, 北海道帯広市 2003

(10)——註5に同じ。

(三笠市立博物館, 国立歴史民俗博物館研究協力者)

(2013年12月21日受付, 2014年7月28日審査終了)